

平成 25 年度

新潟島の北前船時代の街並みづくり
に関する基礎調査

報 告 書

平成 26 年 3 月

中央区自治協議会
水辺とみなとのまち部会

中央区民アンケート調査

『北前船時代の街並みづくり』に関するアンケート調査 結果

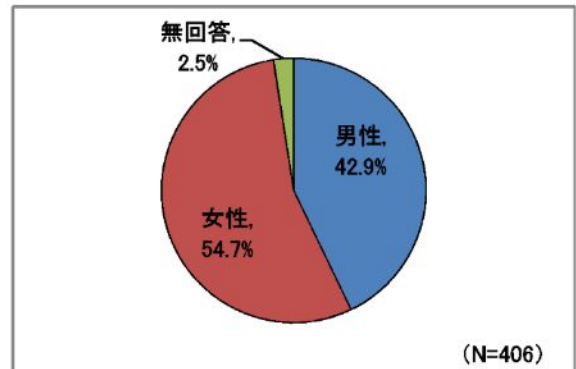
- 調査目的 北前船やみなとまち、観光やまちづくり等に関する地域住民の意向を把握することを目的に実施
- 調査期間 平成26年2月25日～3月7日(11日間) ※締切遅延分も入力
- 対象者 新潟市中央区に住む20歳以上の人を無作為に抽出
- 配布・回収方法 郵送で配布・回収
- 配布数 1,000 通
- 回答数 406 通
- 回収率 40.6 %

■ あなたご自身のことについて、おたずねします。

1. 性別

性別は、「男性」の割合が約43%、「女性」が約55%であった。

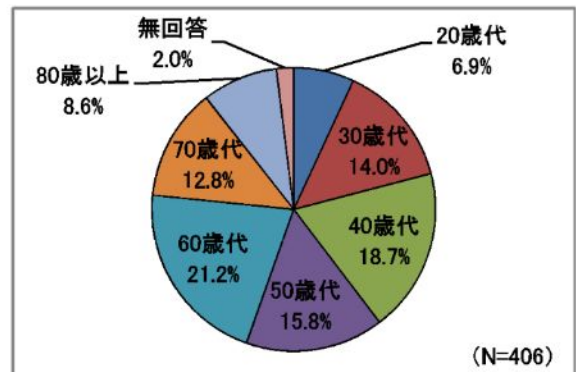
	(件)
1) 男性	174
2) 女性	222
無回答	10
計	406



2. 年齢

年齢は、「60歳代」の割合が最も高く約21%、次いで「40歳代」が約19%であった。

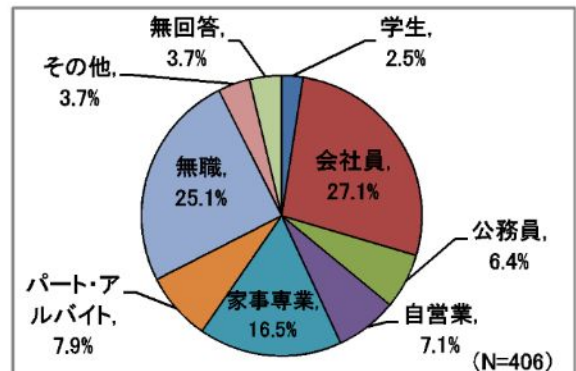
	(件)
1) 20歳代	28
2) 30歳代	57
3) 40歳代	76
4) 50歳代	64
5) 60歳代	86
6) 70歳代	52
7) 80歳以上	35
無回答	8
計	406



3. 職業

職業は、「会社員」の割合が最も高く約27%、次いで「無職」が約25%であった。

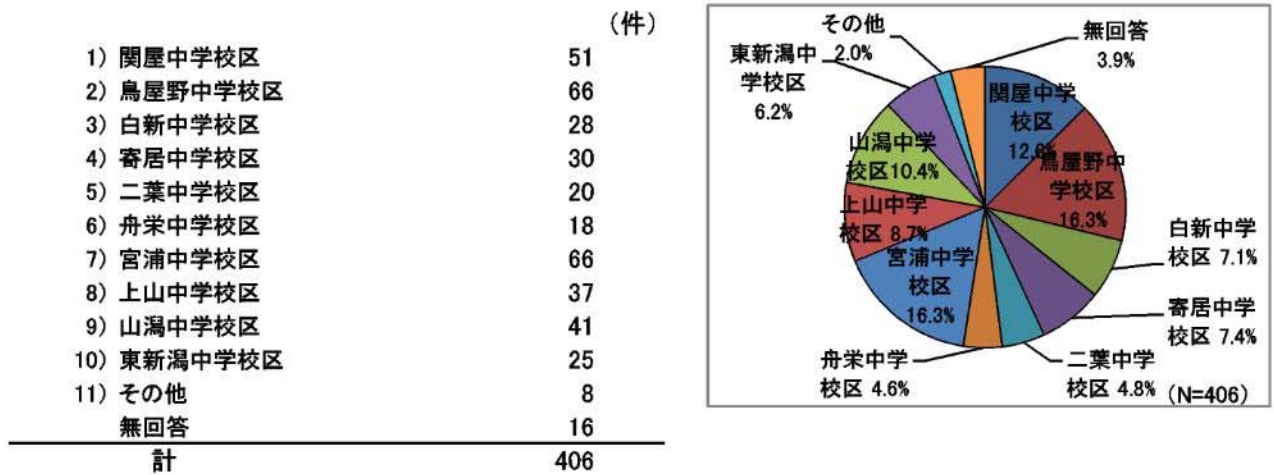
	(件)
1) 学生	10
2) 会社員	110
3) 公務員	26
4) 自営業	29
5) 家事専業	67
6) パート・アルバイト	32
7) 無職	102
8) その他	15
無回答	15
計	406



- その他の意見
 - ・ 団体職員(5)
 - ・ 会社役員(2)
 - ・ 契約・派遣社員(2) など

4. お住まい

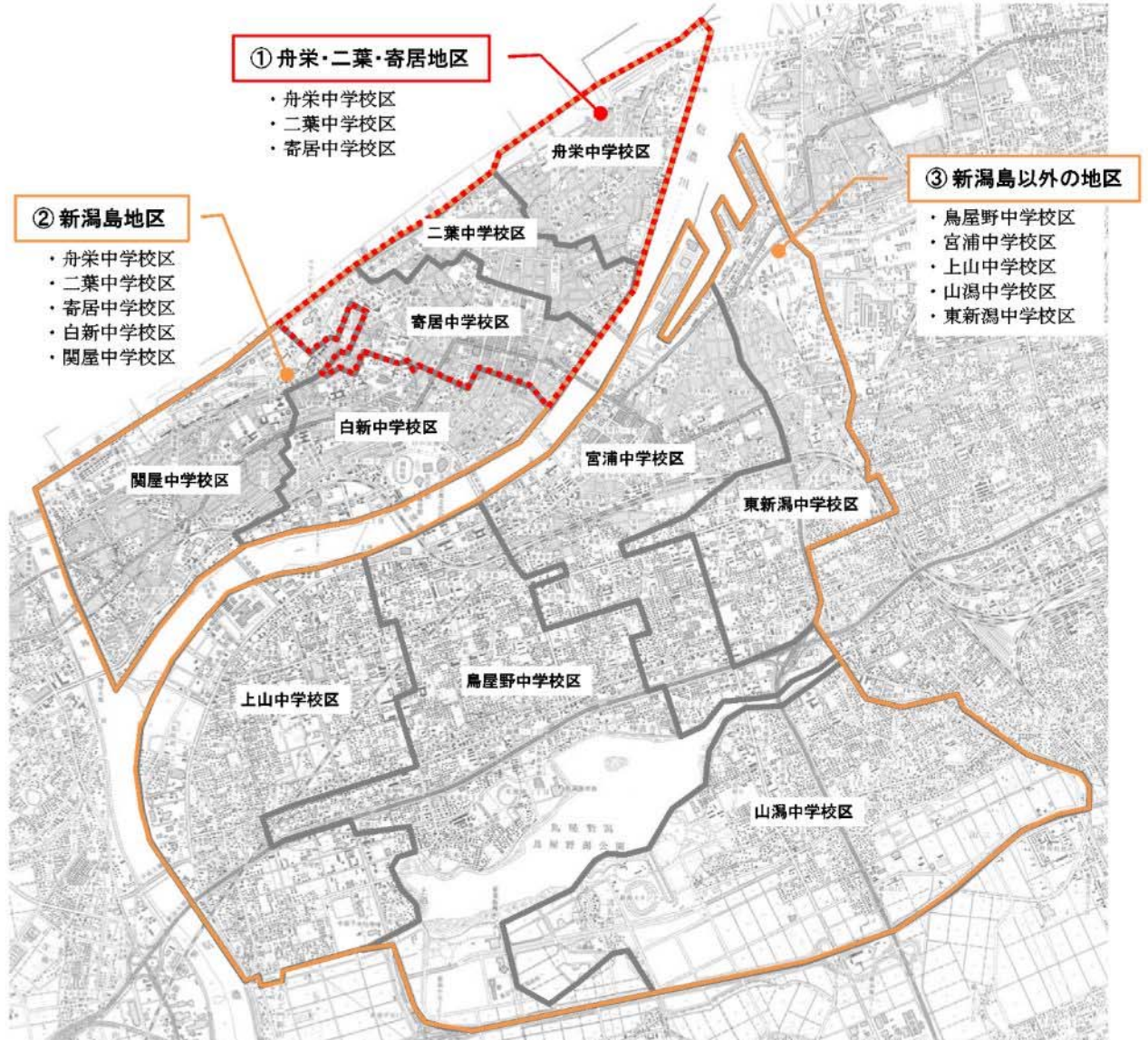
お住まいの地域は、「鳥屋野中学校区」、「宮浦中学校区」の割合が高く約16%であった。



■ その他の意見

- ・どこに該当するかわからない など

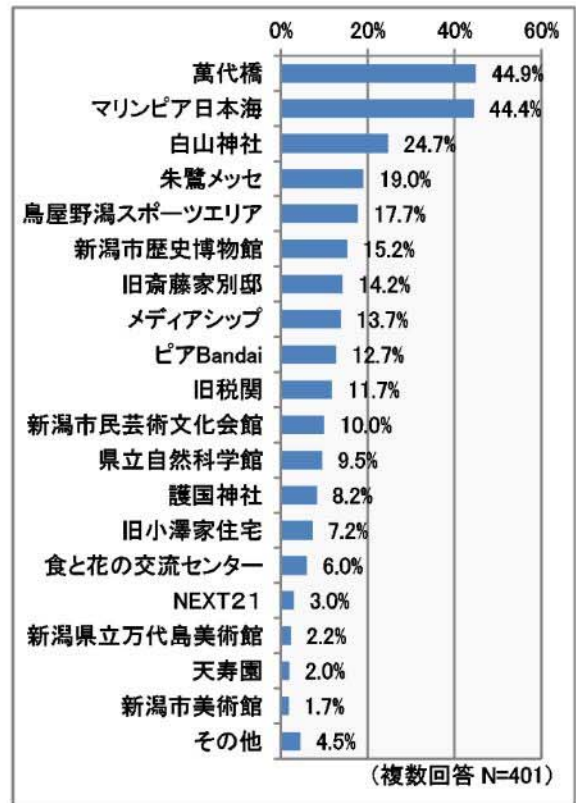
※ 地域別の解析では、北前船に関連の深い地域の特性を把握するため、以下の分類で行うものとする。



問1. 新潟市中央区にあるお勧めの観光スポットはどこですか。（3つまで〇）

お勧めの観光スポットは、「萬代橋」が最も多く180件（約45%）、次いで「マリニピア日本海」が178件（約44%）、「白山神社」が99件（約25%）であった。

	(件)
1) 萬代橋	180
2) マリニピア日本海	178
3) 白山神社	99
4) 朱鷺メッセ	76
5) 鳥屋野潟スポーツエリア(ビッグスワン等)	71
6) 新潟市歴史博物館(みなとびあ)	61
7) 旧斎藤家別邸	57
8) メディアシップ	55
9) ピアBandai	51
10) 旧税関	47
11) 新潟市民芸術文化会館(りゅーとびあ)	40
12) 県立自然科学館	38
13) 護国神社	33
14) 北前船の時代館・旧小澤家住宅	29
15) 食と花の交流センター(いくとびあ)	24
16) NEXT21	12
17) 新潟県立万代島美術館	9
18) 天寿園	8
19) 新潟市美術館	7
20) その他	18
計	875
無回答	6
無効	5



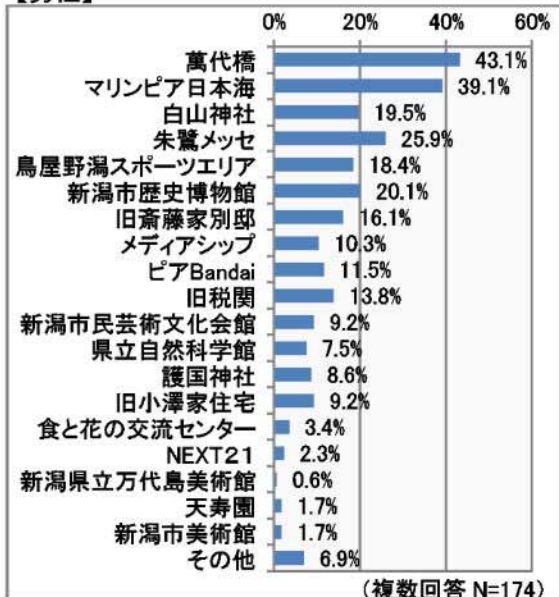
■ その他の意見

- ・ 県政記念館(3)
- ・ やすらぎ堤(2)
- ・ 湊稻荷神社(2)
- ・ なし(2) など

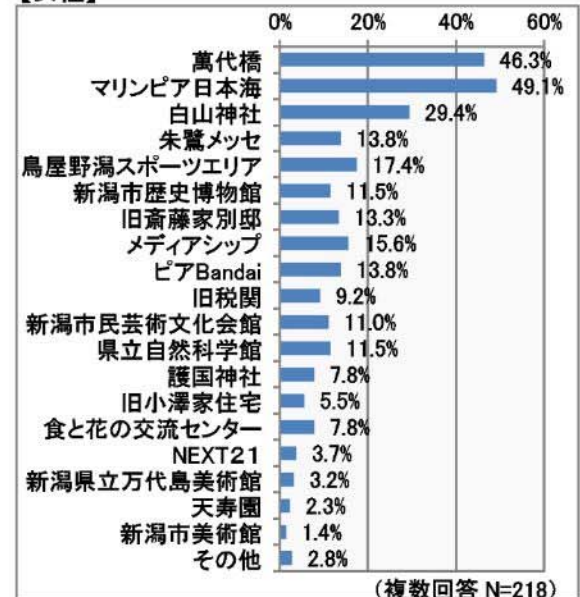
■ 性別

性別で見ると、女性では「マリニピア日本海」をあげる人が最も多く、男性では「朱鷺メッセ」や「新潟市歴史博物館」が比較的多い。

【男性】



【女性】

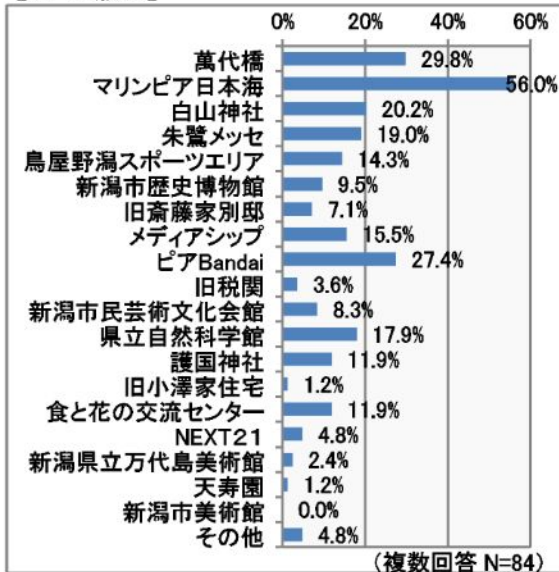


■年齢別

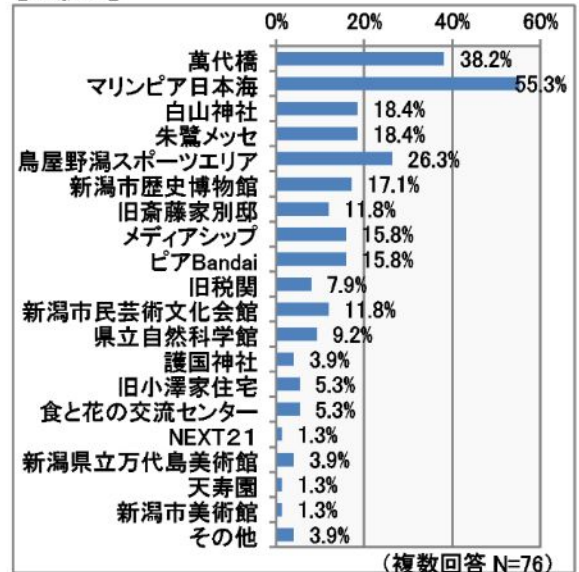
年齢別で見ると、20・30歳代や40歳代といった若い年代ほど「マリニピア日本海」をあげる人が多く、年代が上がるにつれて「萬代橋」をあげる人が多くなる。

また、20・30歳代では「ピアBandai」、40歳代では「鳥屋野潟スポーツエリア」をあげる人が比較的多い。50歳以上の年代では、北前船関連施設をあげる人が比較的多く、50歳代では「新潟市歴史博物館」（約20%）、「旧小澤家住宅」（約11%）、60歳代では「旧税関」（約15%）、70歳以上では「旧斎藤家別邸」（約24%）、「旧税関」（約18%）、「旧小澤家住宅」（約11%）となっている。

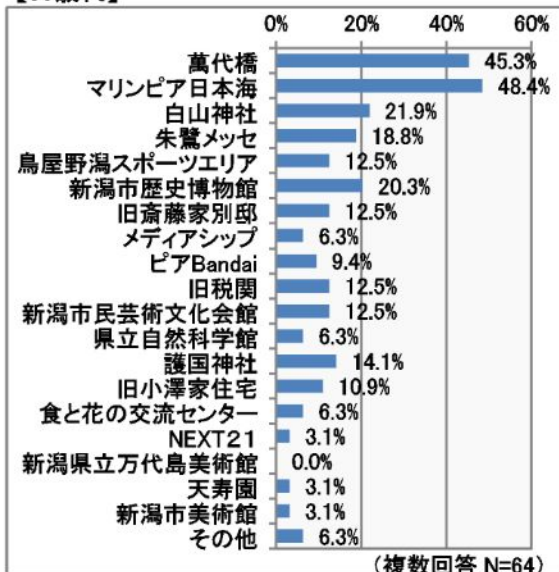
【20・30歳代】



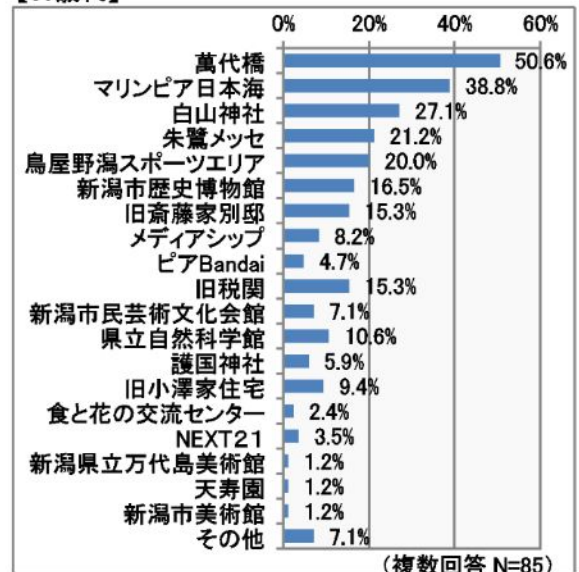
【40歳代】



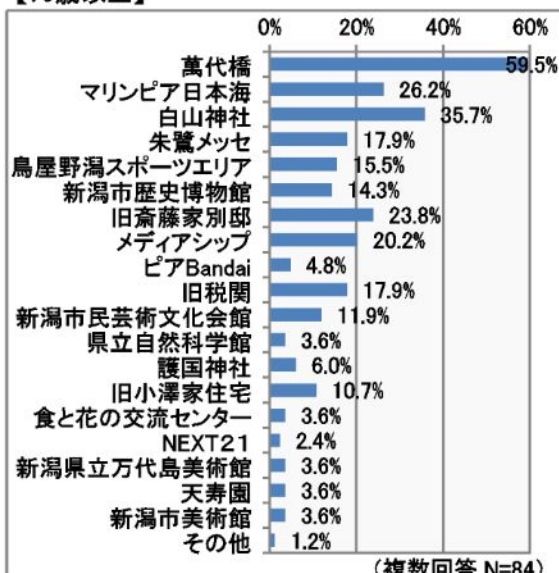
【50歳代】



【60歳代】



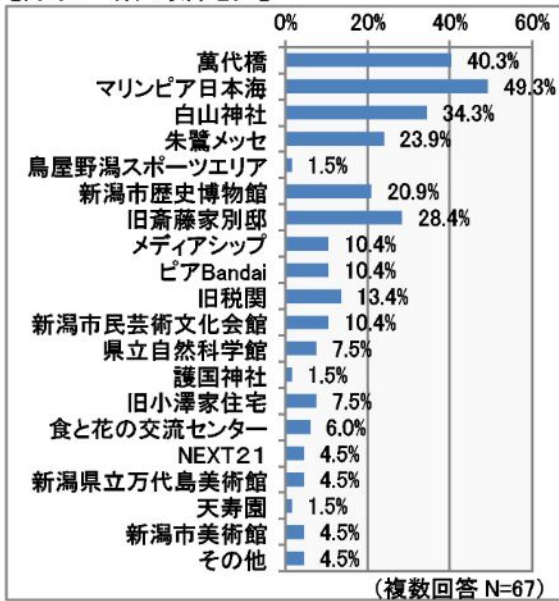
【70歳以上】



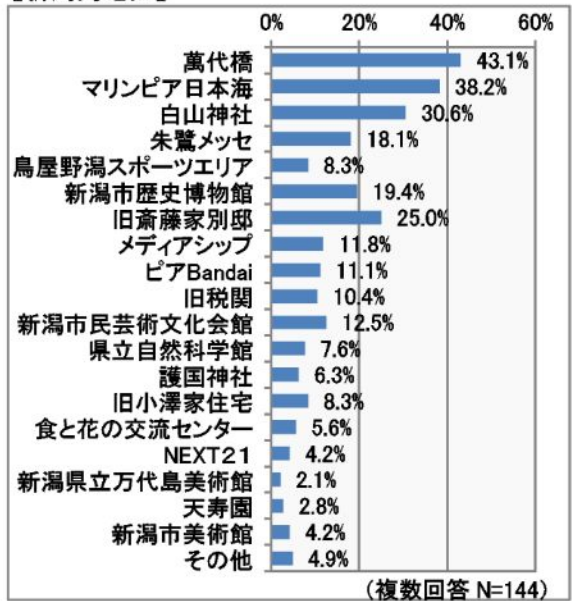
■地域別

地域別で見ると、舟栄・二葉・寄居地区では「マリニピア日本海」をあげる人が特に多く、新潟島以外の地区では「鳥屋野潟スポーツエリア」が比較的多い。
 また、舟栄・二葉・寄居地区、下町地区では「新潟市歴史博物館」や「旧斎藤家別邸」といった北前船関連施設をあげる人が多い傾向にある。

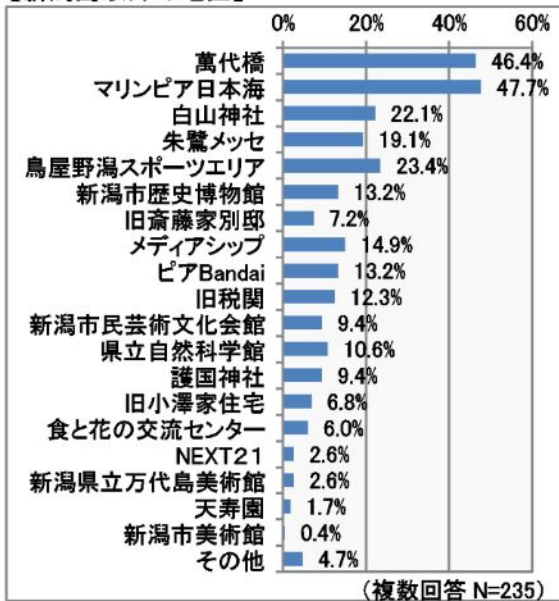
【舟栄・二葉・寄居地区】



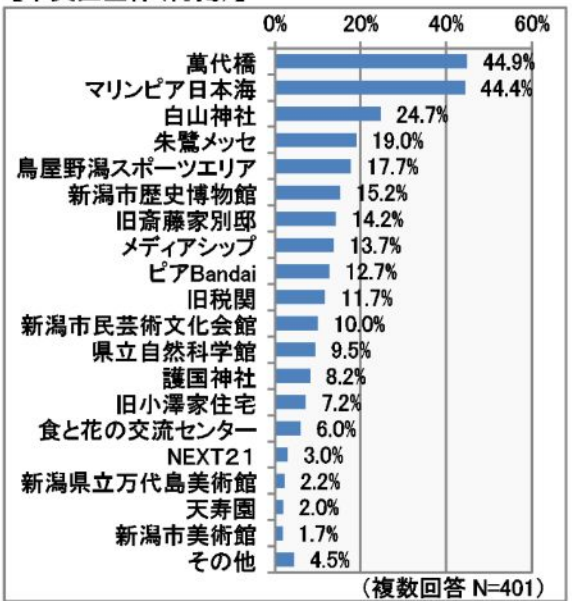
【新潟島地区】



【新潟島以外の地区】



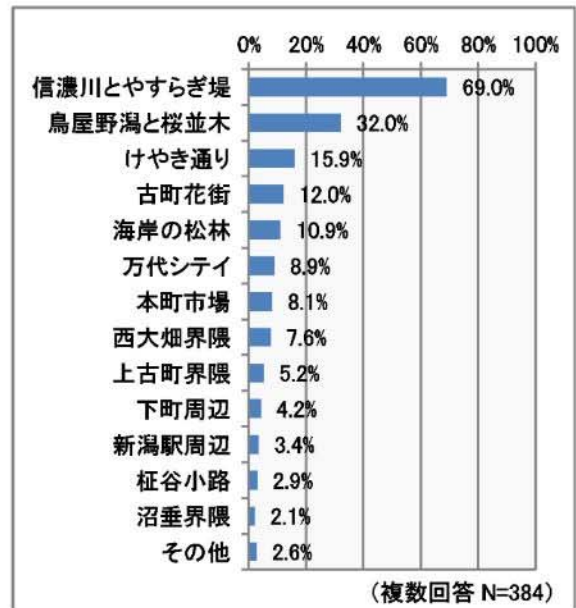
【中央区全体(再掲)】



問2. 新潟市中央区の魅力的な景観や街並みはどこですか。（2つまで〇）

魅力的な景観や街並みは、「信濃川とやすらぎ堤」が最も多く265件（約69%）、次いで「鳥屋野潟と桜並木」が123件（約32%）、「けやき通り」が61件（約16%）であった。

	(件)
1) 信濃川とやすらぎ堤	265
2) 鳥屋野潟と桜並木	123
3) けやき通り	61
4) 古町花街	46
5) 海岸の松林	42
6) 万代シテイ	34
7) 本町市場	31
8) 西大畑界限	29
9) 上古町界限	20
10) 下町周辺	16
11) 新潟駅周辺	13
12) 榎谷小路	11
13) 沼垂界限	8
14) その他	10
計	709
無回答	6
無効	22



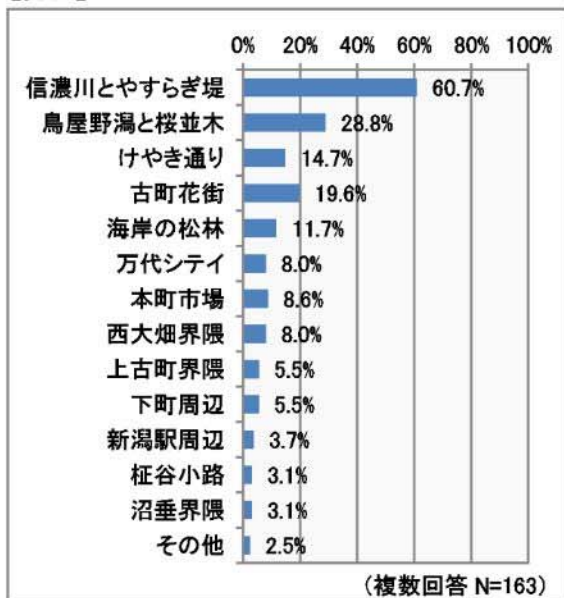
■ その他の意見

- ・ 日本海・夕日(4)
- ・ 萬代橋周辺の夜景(2) など

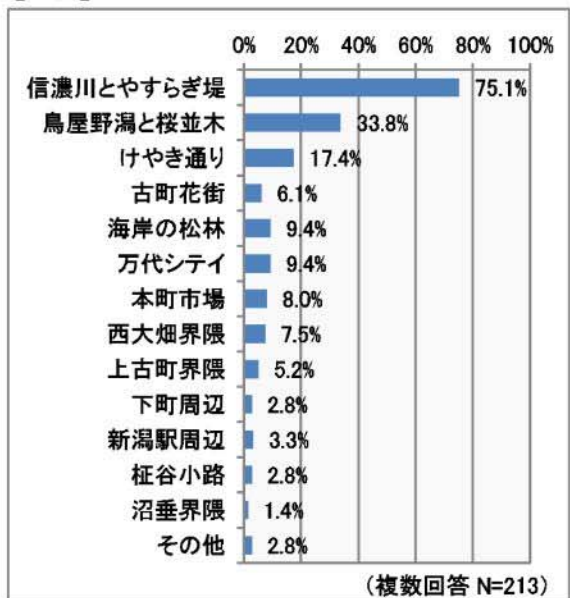
■ 性別

性別で見ると、男性では「古町花街」をあげる人が比較的多い。

【男性】



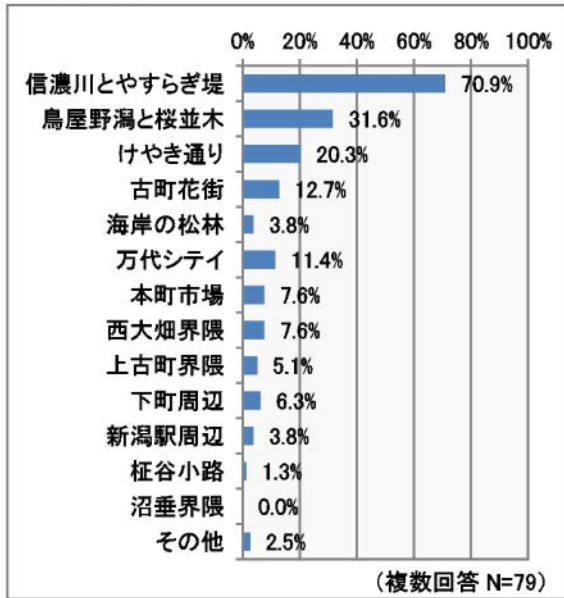
【女性】



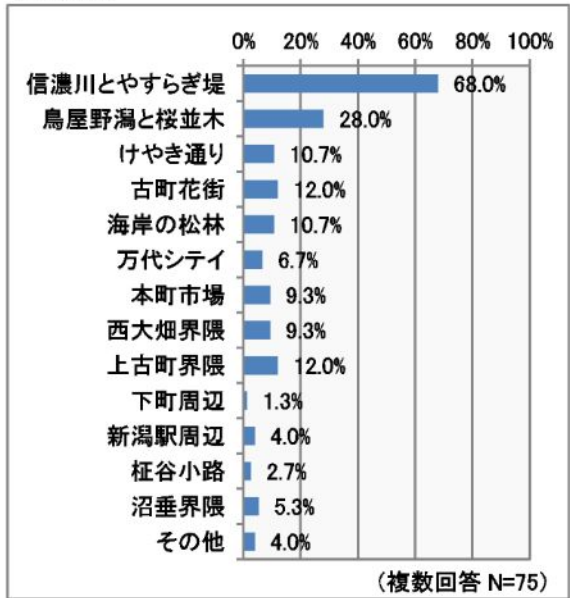
■年齢別

年齢別で見ると、40歳代では「上古町界限」をあげる人が比較的多く、60歳代や70歳以上では「海岸の松林」をあげる人の割合が比較的多い。

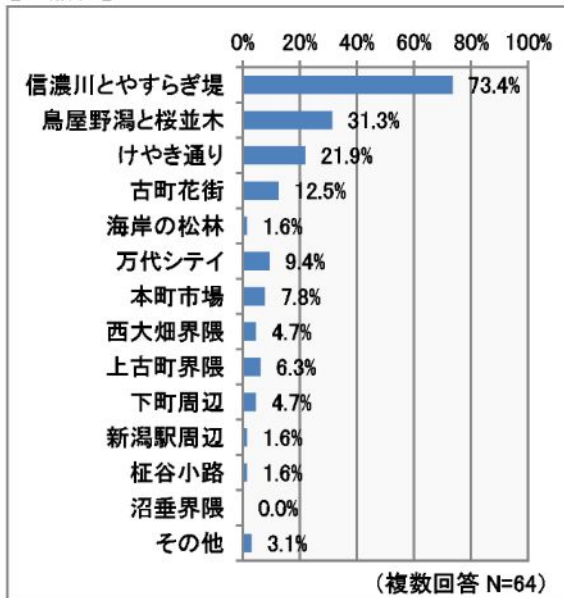
【20・30歳代】



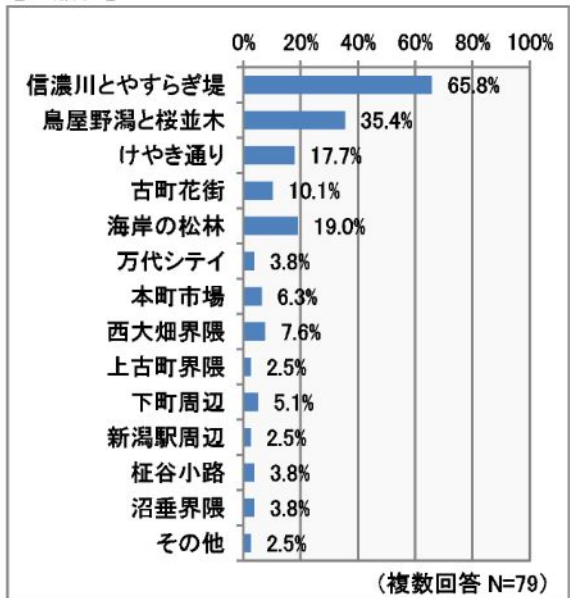
【40歳代】



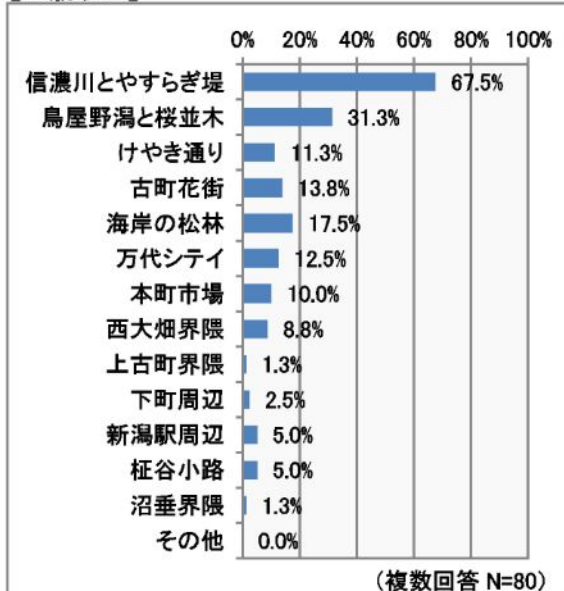
【50歳代】



【60歳代】



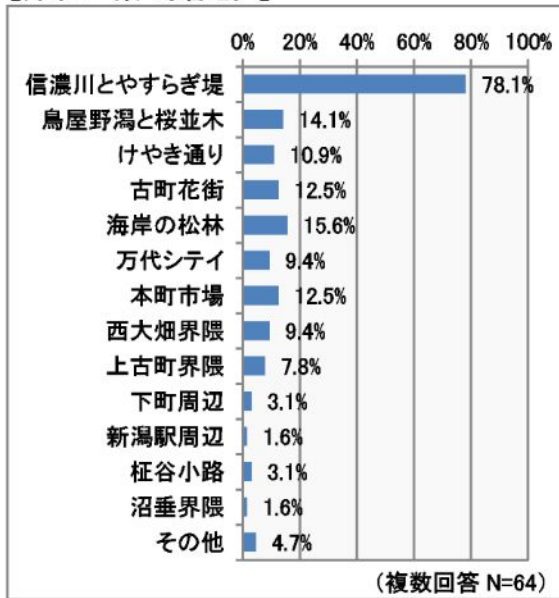
【70歳以上】



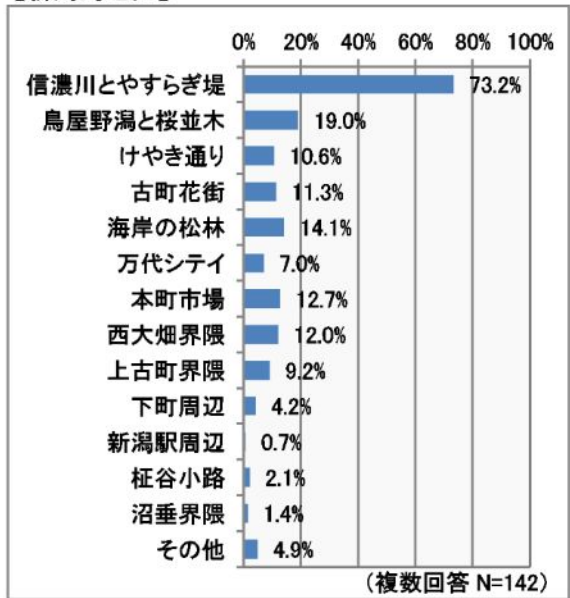
■地域別

地域別で見ると、新潟県地区（舟栄・二葉・寄居地区のみ含む）では、「信濃川とやすらぎ堤」をあげる人が特に多く、「海岸の松林」をあげる人が比較的多い。新潟県以外の地区では「鳥屋野潟と桜並木」をあげる人が多い。

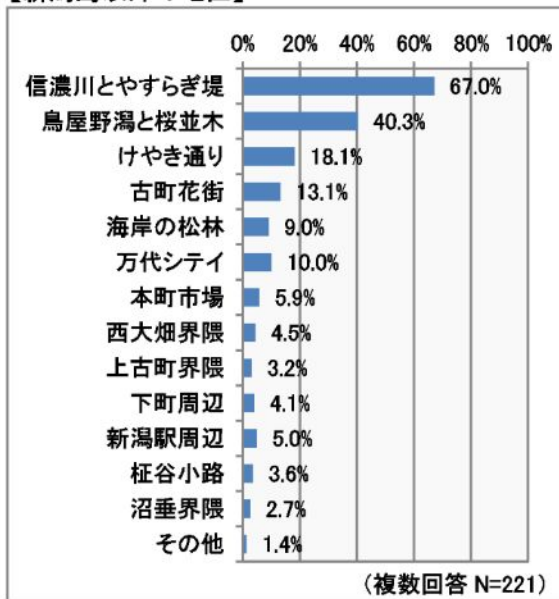
【舟栄・二葉・寄居地区】



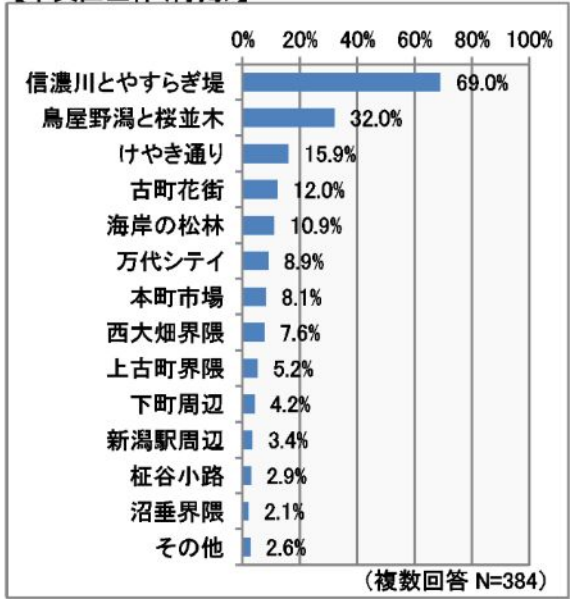
【新潟県地区】



【新潟県以外の地区】



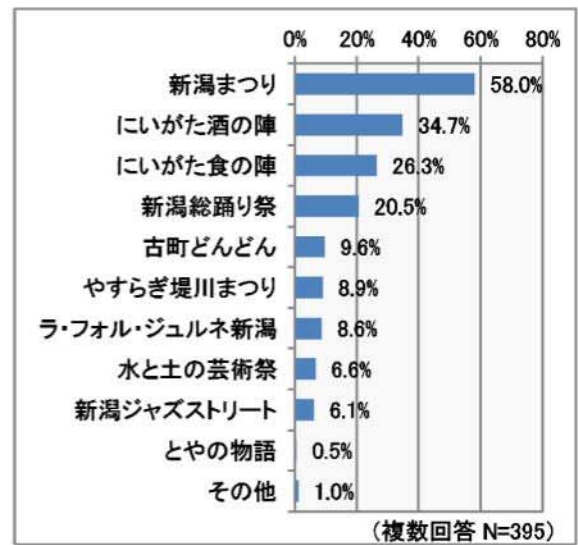
【中央区全体(再掲)】



問3. 新潟市中央区を会場とする代表的な観光資源として、魅力的な行事・イベントは何ですか。(2つまで〇)

魅力的な行事・イベントは、「新潟まつり」が最も多く229件(約58%)、次いで「にいがた酒の陣」が137件(約35%)、「にいがた食の陣」が104件(約26%)であった。

	(件)
1) 新潟まつり	229
2) にいがた酒の陣	137
3) にいがた食の陣	104
4) 新潟総踊り祭	81
5) 古町どんどん	38
6) やすらぎ堤川まつり	35
7) ラ・フォル・ジュルネ新潟	34
8) 水と土の芸術祭	26
9) 新潟ジャズストリート	24
10) とやの物語	2
11) その他	4
計	710
無回答	10
無効	11

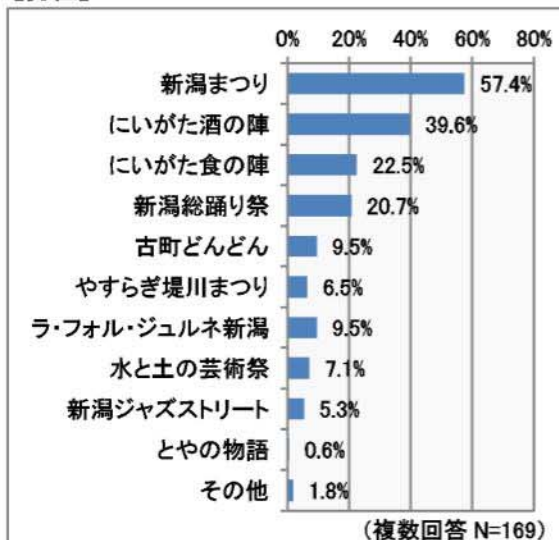


■ その他の意見
・ なし(3) など

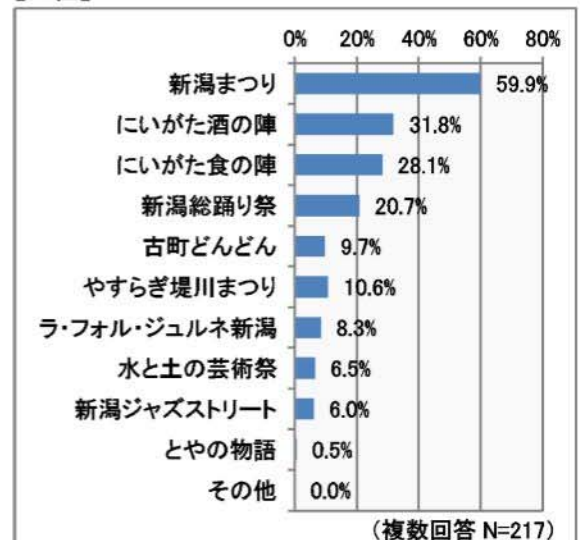
■ 性別

性別で見ると、男性では「にいがた酒の陣」をあげる人が比較的多く、女性では「にいがた食の陣」をあげる人が比較的多い。

【男性】



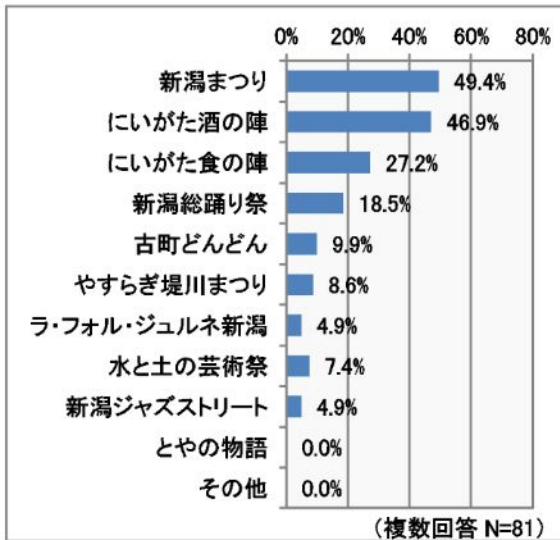
【女性】



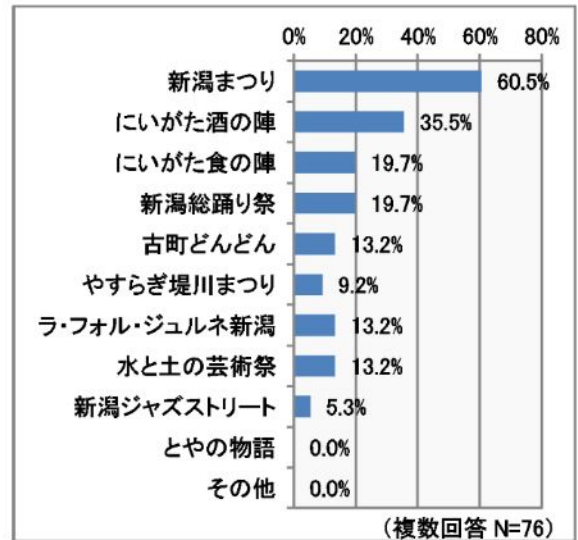
■年齢別

年齢別で見ると、20・30歳代では「にいがた酒の陣」をあげる人が比較的多く、60歳代では「にいがた食の陣」70歳以上では「新潟総踊り祭」をあげる人が比較的多い。

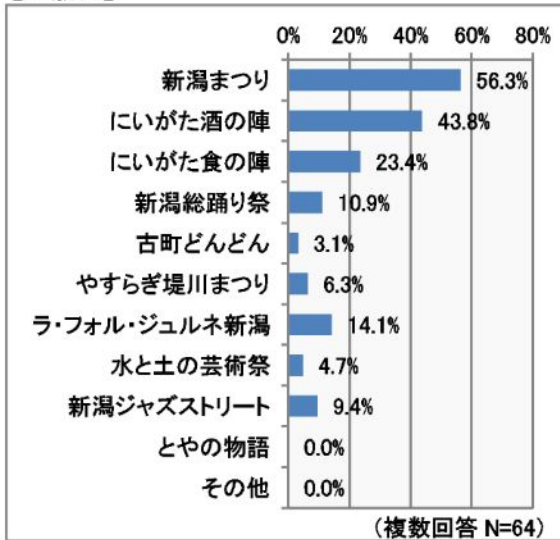
【20・30歳代】



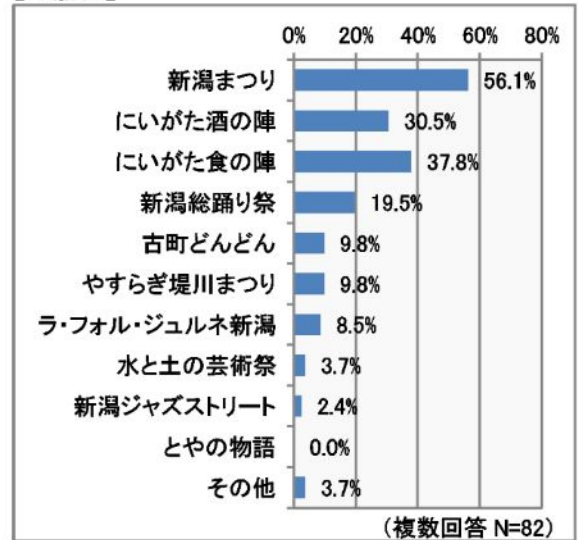
【40歳代】



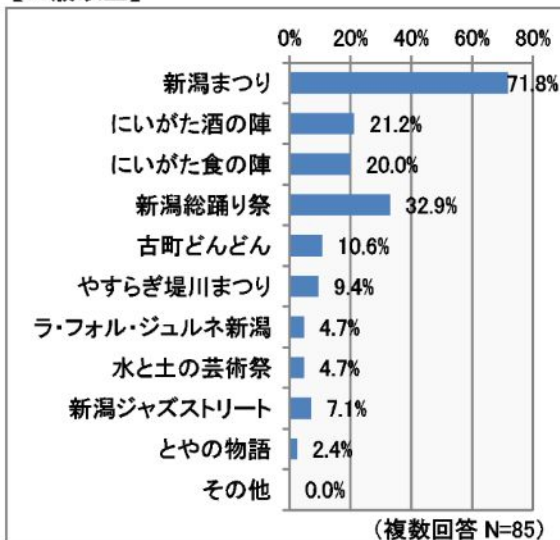
【50歳代】



【60歳代】



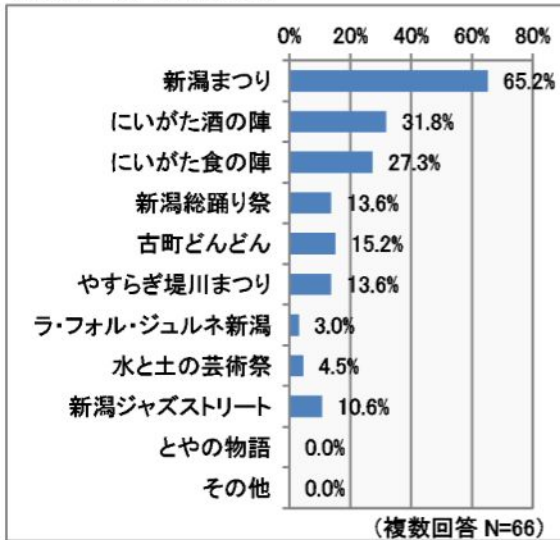
【70歳以上】



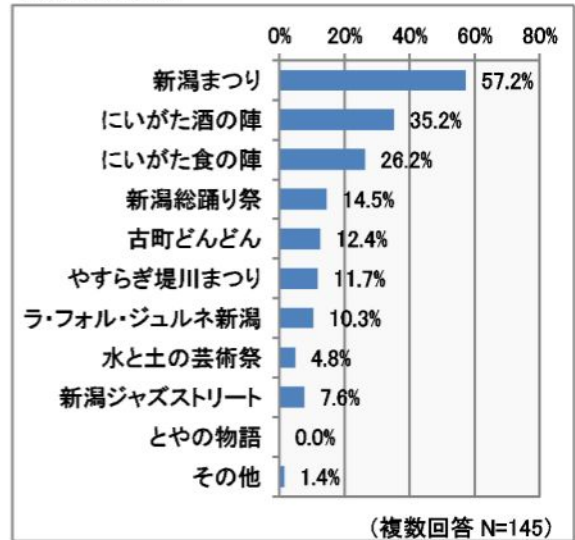
■地域別

地域別で見ると、舟栄・二葉・寄居地区では「古町どんどん」や「やすらぎ堤川まつり」をあげる人の割合が比較的多く、新潟島以外の地区では「新潟総踊り祭」をあげる人の割合が比較的多い。

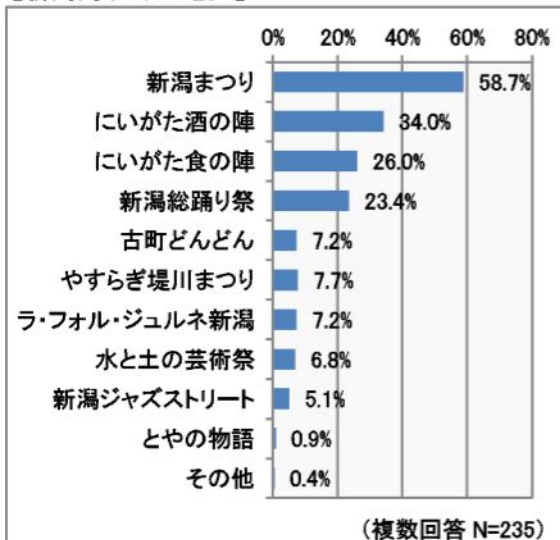
【舟栄・二葉・寄居地区】



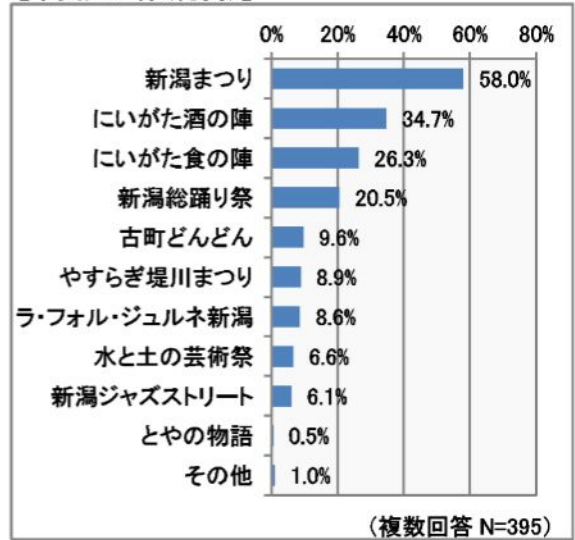
【新潟島地区】



【新潟島以外の地区】



【中央区全体(再掲)】



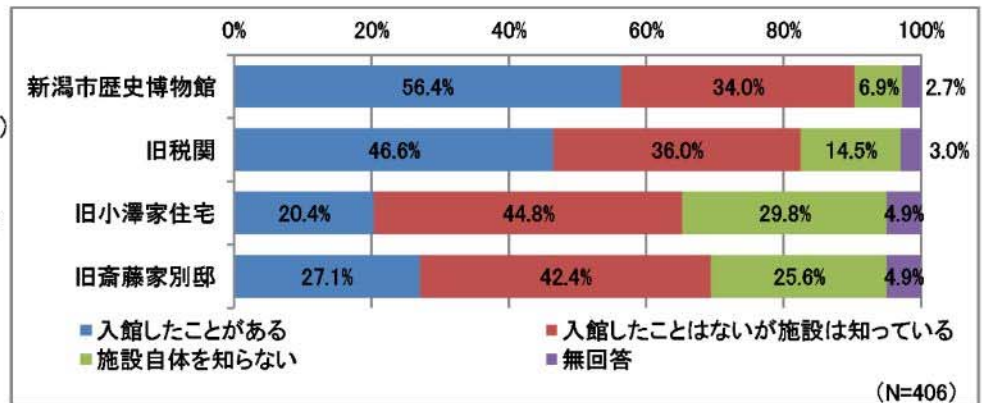
問4. 「みなとまち新潟」を象徴する以下の施設に入館したことがありますか。
各施設について、あてはまる番号に○をつけてください（それぞれ1つに○）

みなとまちを象徴する施設への入館状況は、「新潟市歴史博物館」で最も入館率が高く約56%、次いで「旧税関」が約47%であった。「旧小澤家住宅」、「旧斎藤家別邸」の入館率はそれぞれ約20%、約27%であり、施設自体を知らない人はそれぞれ約30%、約26%であった。

	入館したことがある	入館したことはないが施設は知っている	施設自体を知らない	無回答	計
ア)新潟市歴史博物館(みなとぴあ)	229	138	28	11	406
イ)旧税関	189	146	59	12	406
ウ)北前船の時代館・旧小澤家住宅	83	182	121	20	406
エ)旧斎藤家別邸	110	172	104	20	406

オ) その他の意見

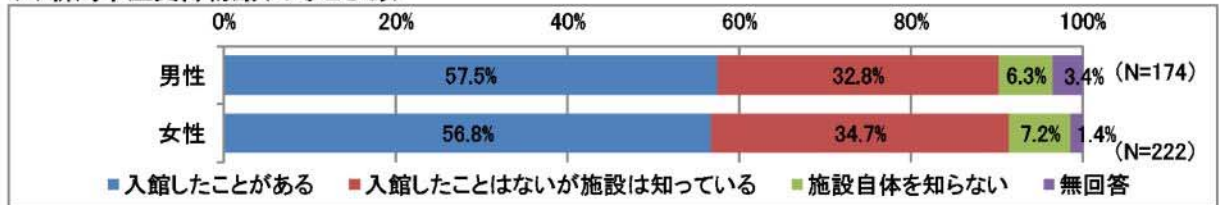
- ・ 砂丘館(5)
- ・ 県政記念館(3)
- ・ 湊稻荷神社(3)
- ・ メディアシップ(2)
- ・ なし(3)
- ・ 金刀比羅神社
- ・ 燕喜館 など



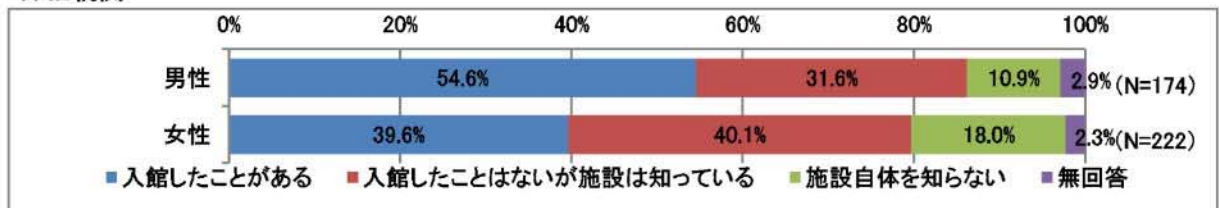
■ 性別

性別で見ると、「旧税関」で男性の方が入館率が高くなっている。

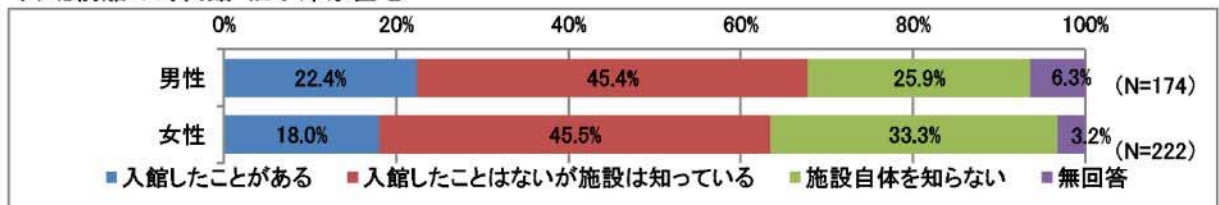
ア)新潟市歴史博物館(みなとぴあ)



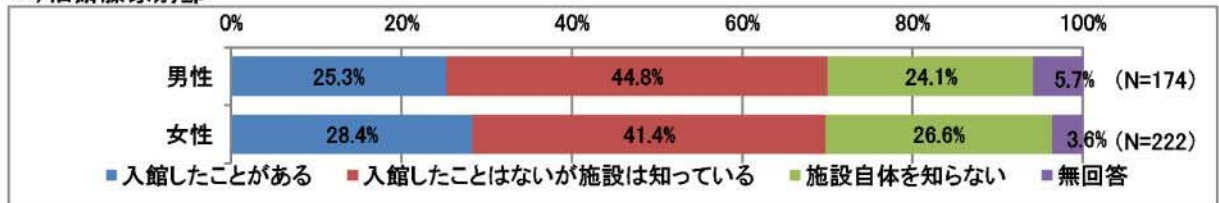
イ)旧税関



ウ)北前船の時代館・旧小澤家住宅



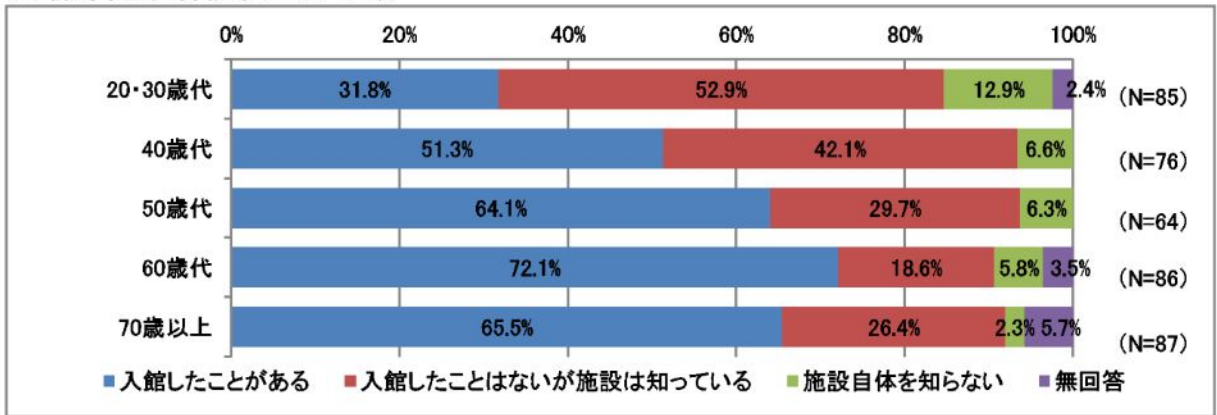
エ)旧斎藤家別邸



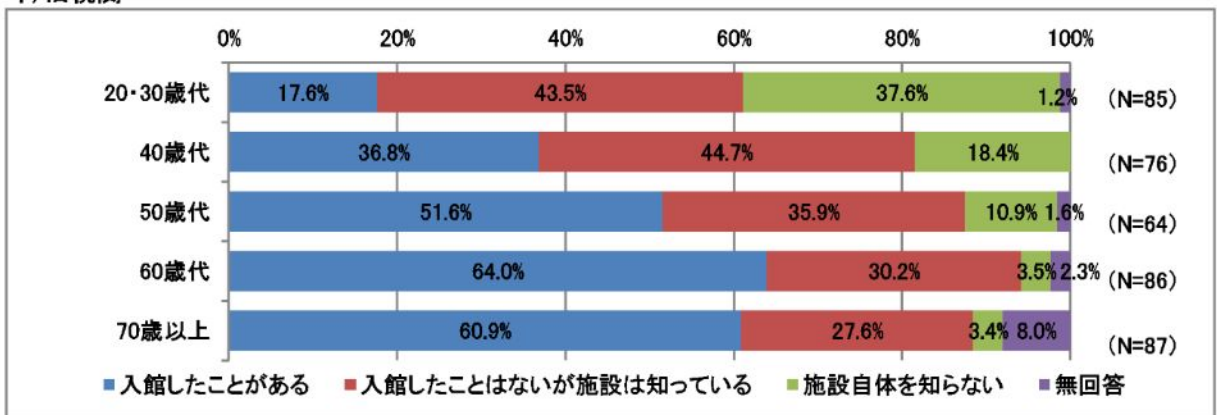
■年齢別

年齢別で見ると、各施設で年齢が上がるほど入館率が高くなる傾向にある。20・30歳代では全施設で入館率が低く、「旧小澤家住宅」や「旧斎藤家別邸」では、半数以上の人が入館自体を知らない。

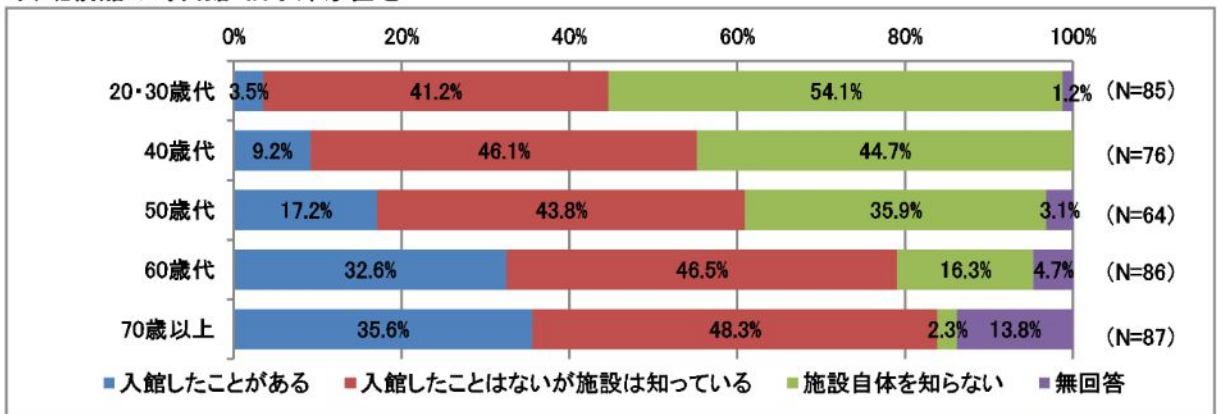
ア)新潟市歴史博物館(みなとびあ)



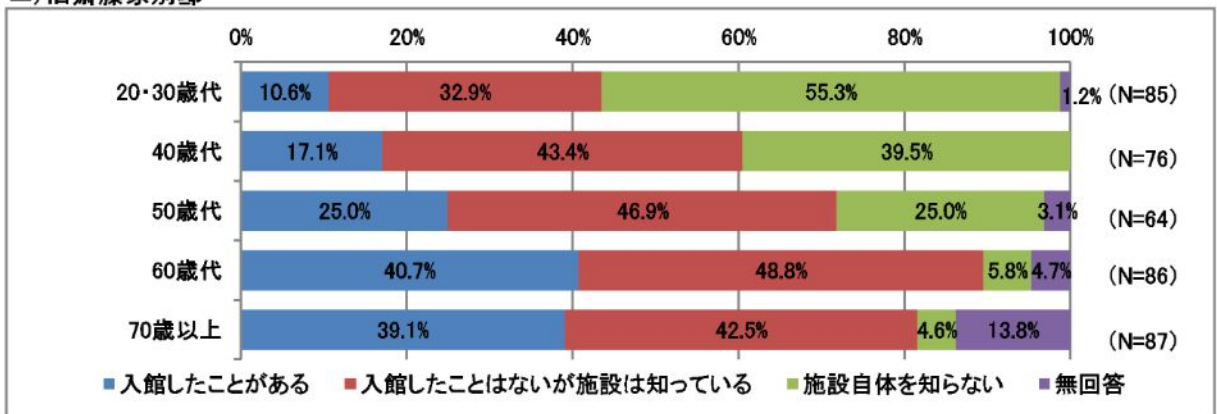
イ)旧税関



ウ)北前船の時代館・旧小澤家住宅



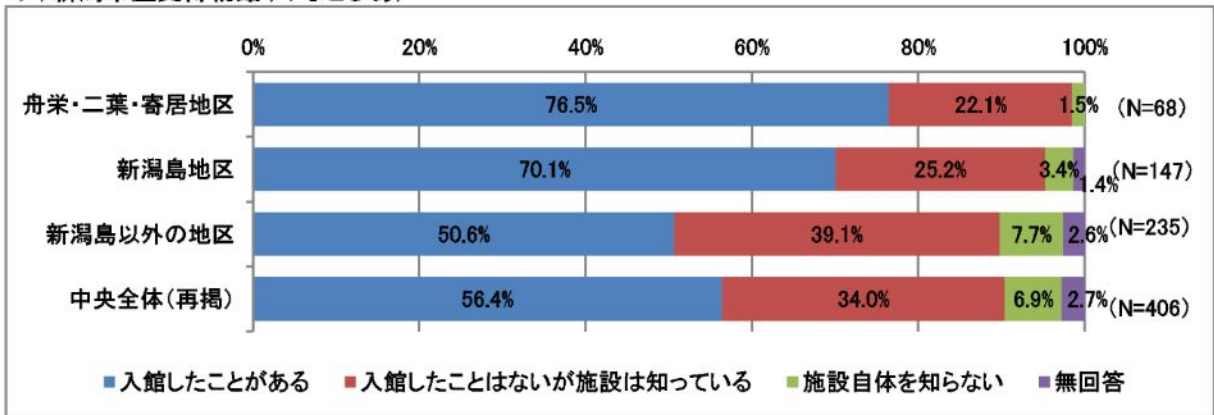
エ)旧斎藤家別邸



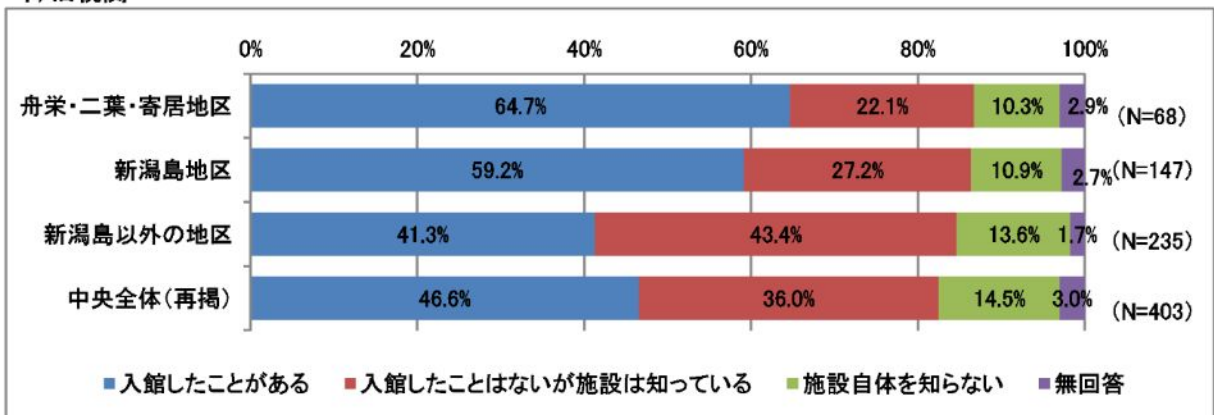
■地域別

地域別で見ると、各施設で新潟島地区（舟栄・二葉・寄居地区のみ含む）の入館率が高い傾向にある。

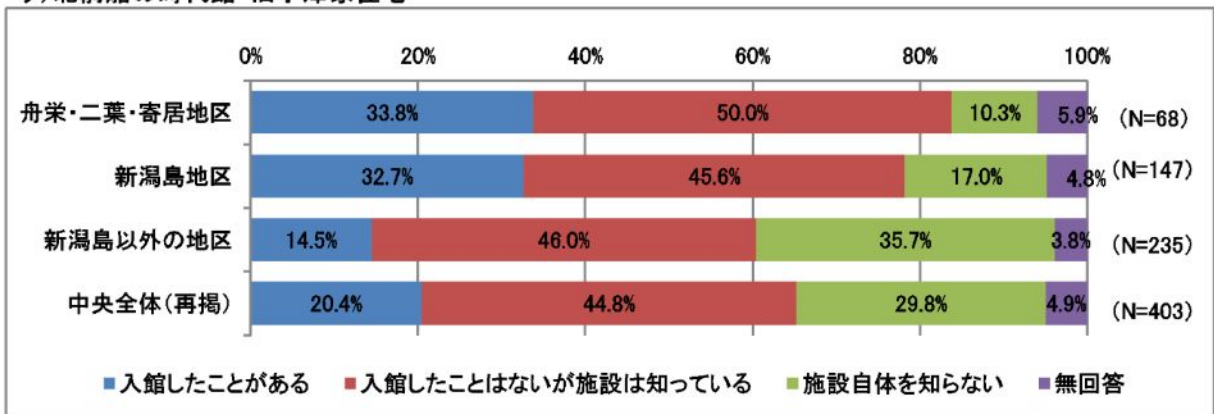
ア)新潟市歴史博物館(みなとびあ)



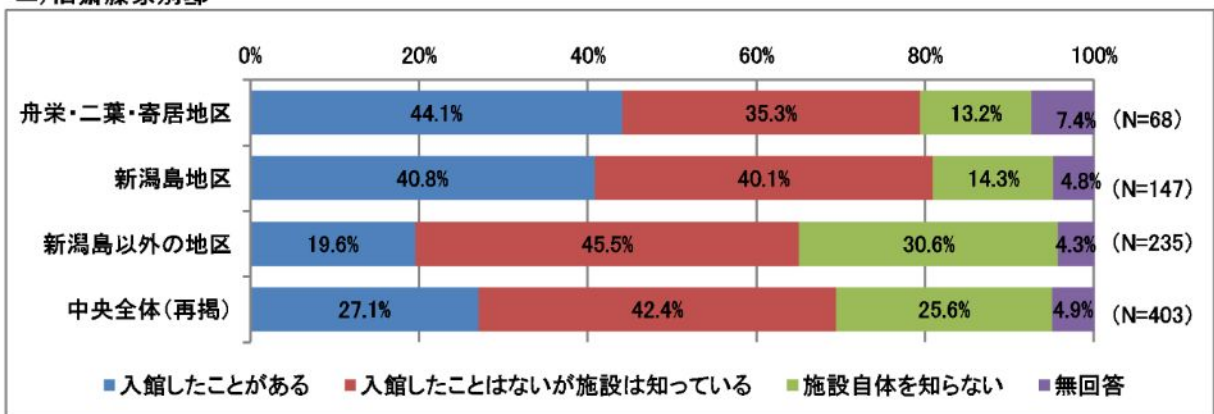
イ)旧税関



ウ)北前船の時代館・旧小澤家住宅



エ)旧斎藤家別邸

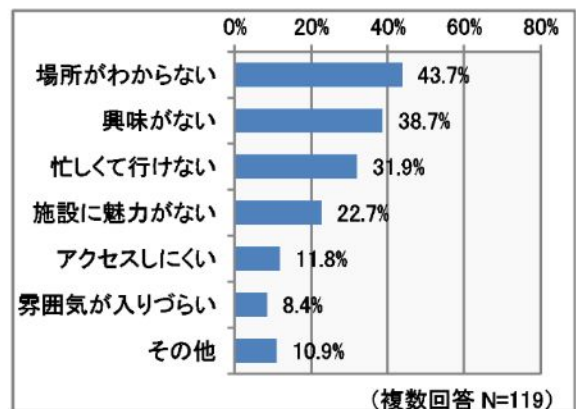


問4ですべて“入館したことはない”とお答えになった方にお聞きします。

問4-2. 入館したことがない理由は何ですか。(いくつでも○)

入館したことがない理由は、「場所がわからない」が最も多く52件(約44%)、次いで「興味がない」が46件(約39%)、「忙しくて行けない」が38件(約32%)であった。

	(件)
1) 場所がわからない	52
2) 興味がない	46
3) 忙しくて行けない	38
4) 施設に魅力がない	27
5) アクセスしにくい	14
6) 雰囲気が入りづらい	10
7) その他	13
計	200
無回答	3

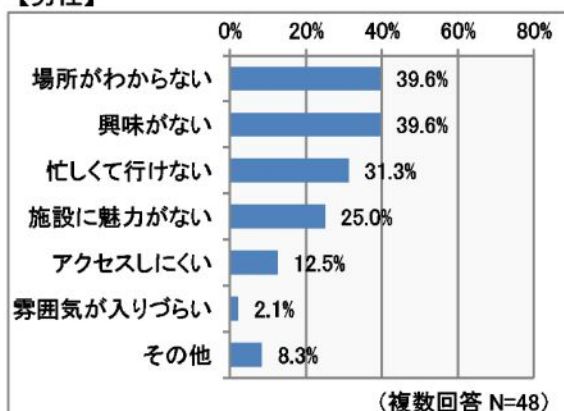


■ その他の意見

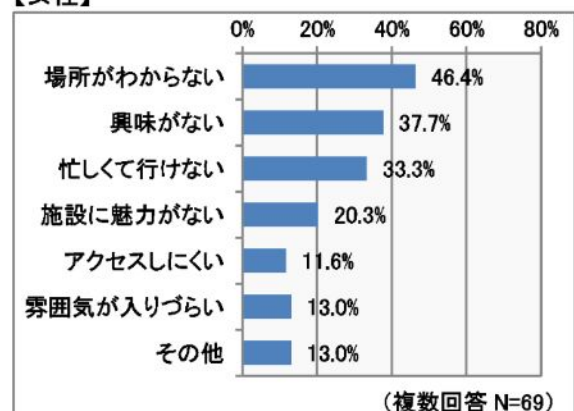
- ・用事がない、気にしたことがない、そのためだけに行こうと思わない(4)
- ・いつでも行けるといながら見過ごしている(2)
- ・家族(子連れ)には魅力的ではない(2)
- ・どんな施設なのか知らない、情報が少ない(2) など

■ 性別

【男性】

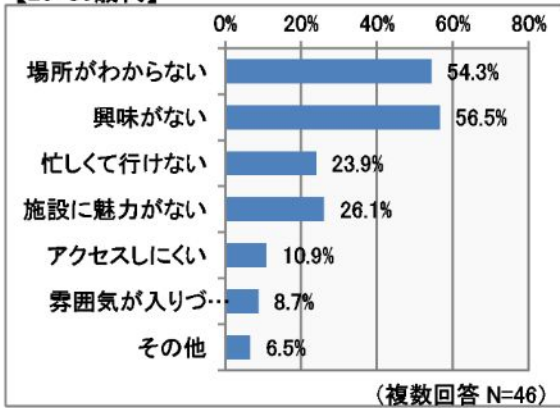


【女性】

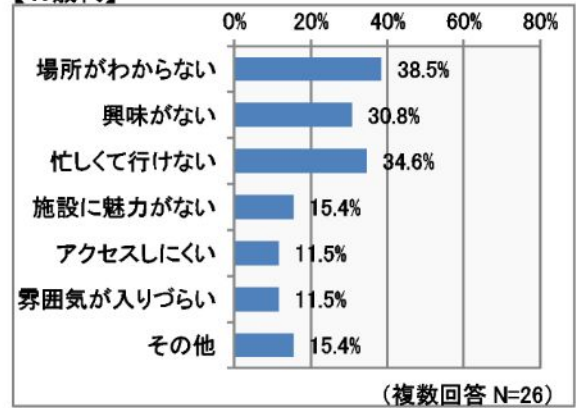


■年齢別

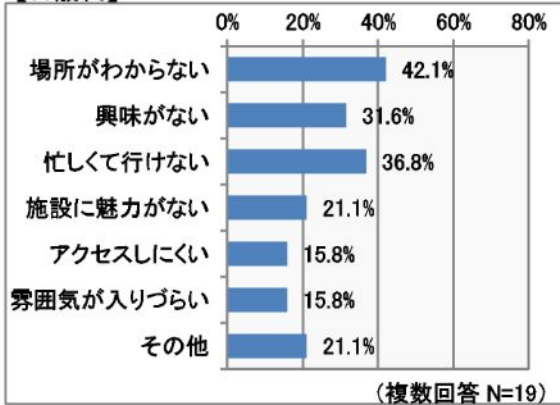
【20・30歳代】



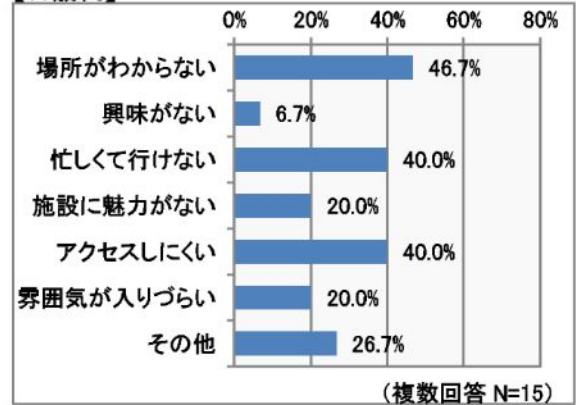
【40歳代】



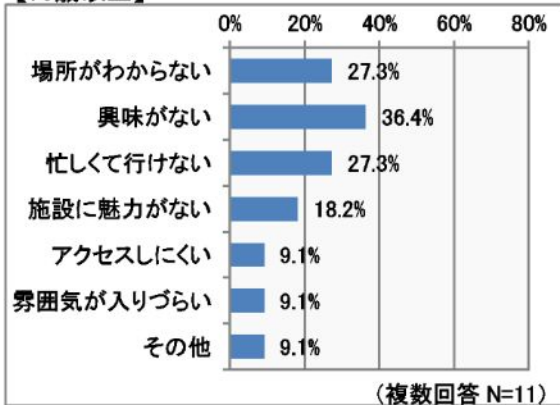
【50歳代】



【60歳代】

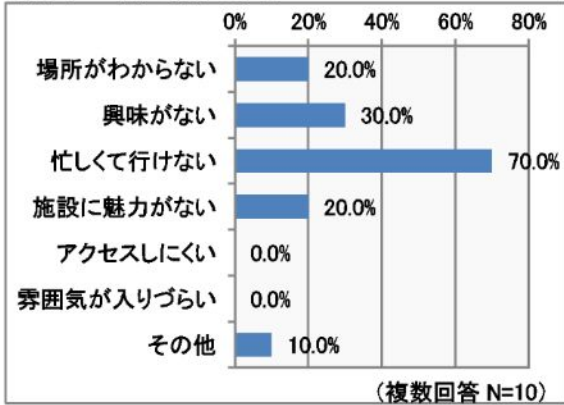


【70歳以上】

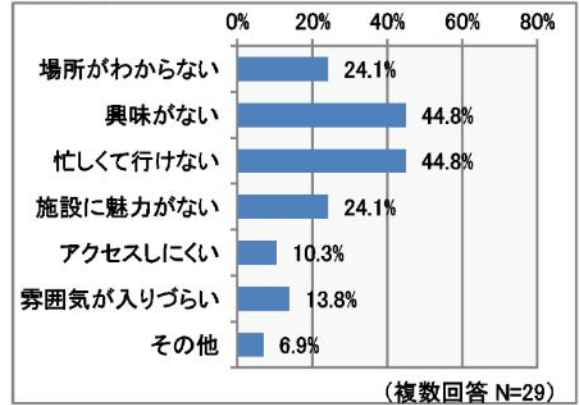


■地域別

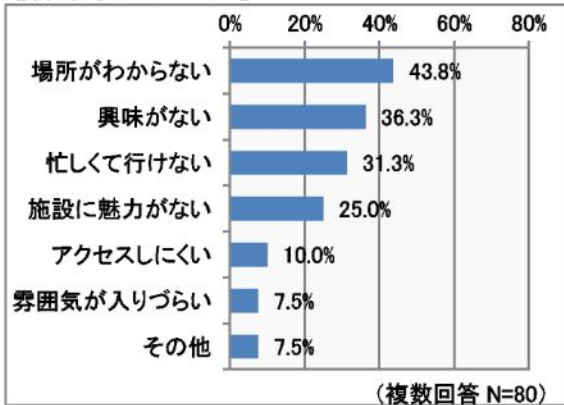
【舟栄・二葉・寄居地区】



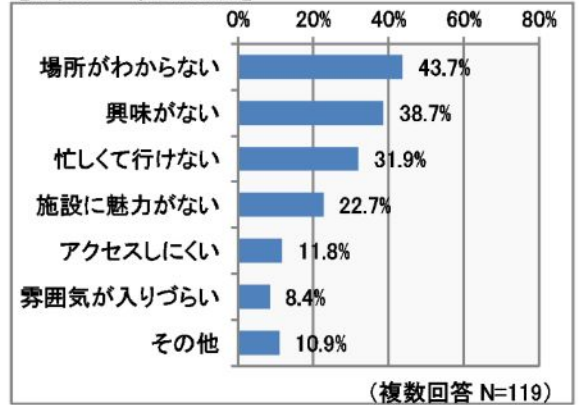
【新潟島地区】



【新潟島以外の地区】



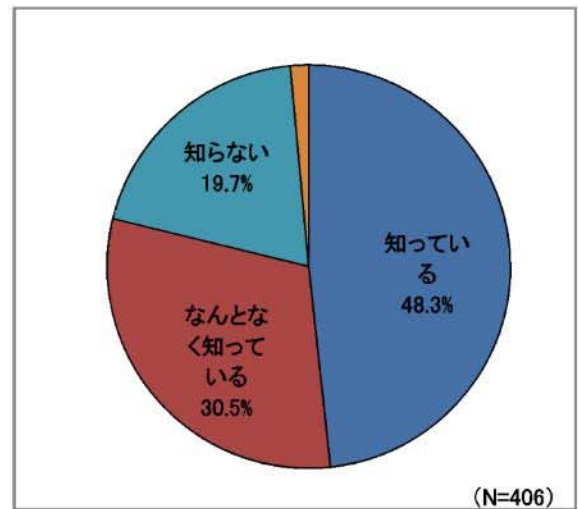
【中央区全体(再掲)】



新潟市の中心街には、昭和30年代まで、一番堀、西堀、東堀、秣川岸、早川堀通り、五菜堀通り、栗の木川など、沢山の堀と川の畔に柳の木が並ぶ街並みがありました。あなたはこのことをご存知ですか。（1つに〇）

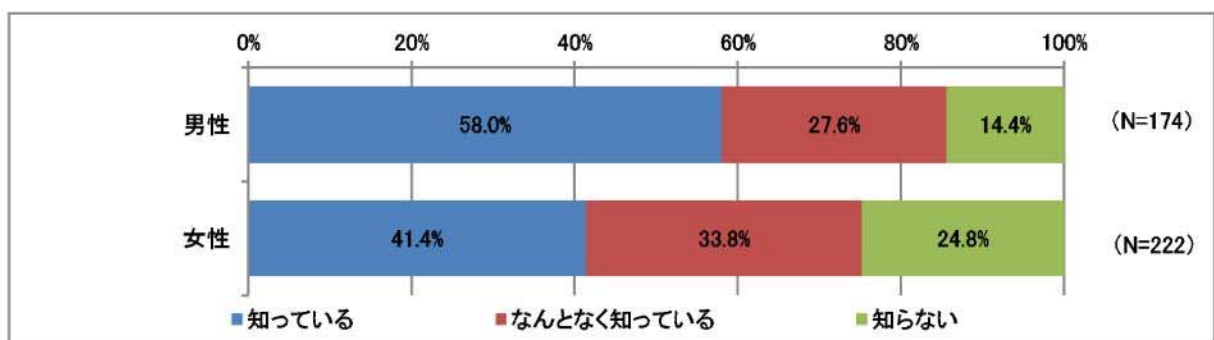
新潟市中心街の昔の街並みについては、「知っている」割合が最も高く約49%、「なんとなく知っている」と合わせると約8割の人が昔の街並みを知っている。

	(件)
1) 知っている	196
2) なんとなく知っている	124
3) 知らない	80
無回答	6
計	406



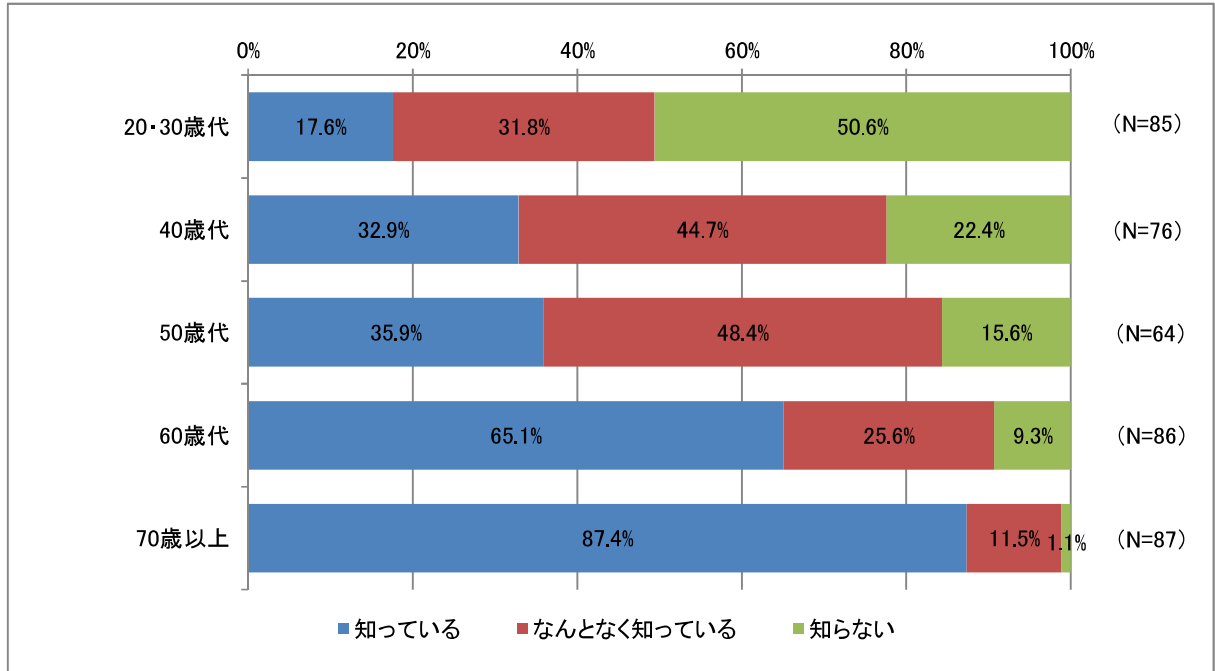
■性別

性別で見ると、男性の方が「知っている」割合が高い。



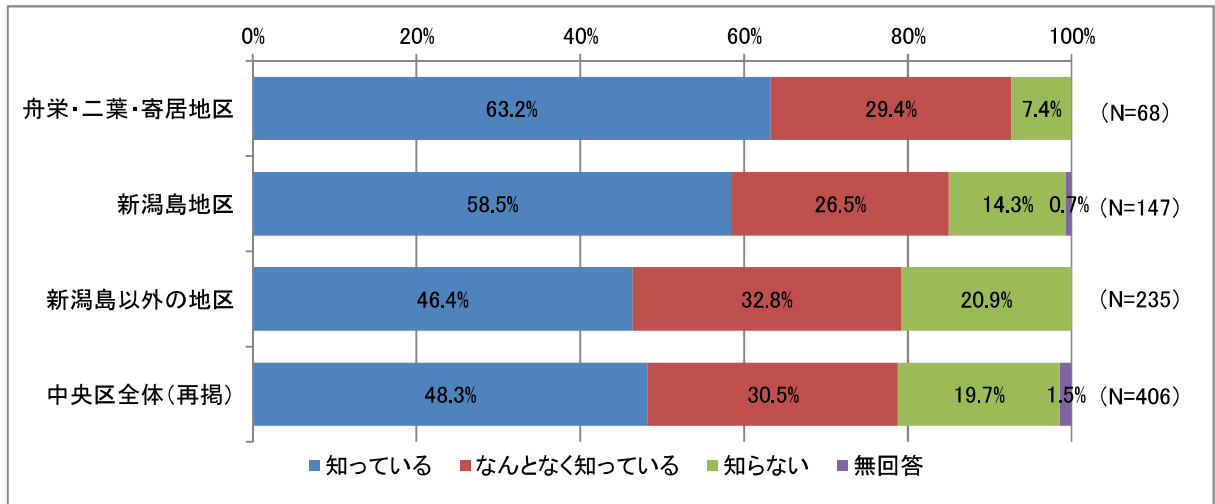
■ 年齢別

年齢別で見ると、年齢が上がるほど「知っている」割合が高くなる傾向にあり、60歳代では約7割、70歳以上では約9割の人が昔の街並みを知っている。



■ 地域別

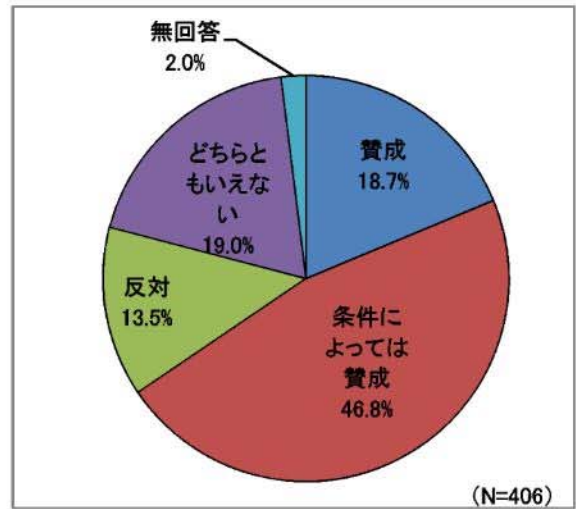
地域別で見ると、新潟島地区（舟栄・二葉・寄居地区のみ含む）の方が「知っている」割合が高い。



問6. 北前船時代の新潟は、縦横に堀割が巡らされた湊町でした。『北前船時代の街並みづくり』のイメージとして、「堀割」の再生について、どう思いますか。(1つに○)

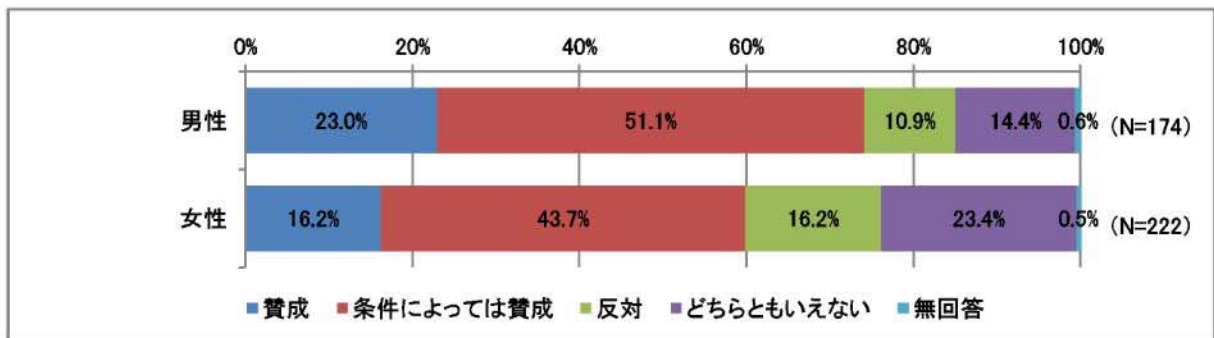
堀割の再生については、「条件によっては賛成」の割合が最も高く約47%、「賛成」と合わせると約7割の人が堀割の再生に賛成している。

	(件)
1) 賛成	76
2) 条件によっては賛成	190
3) 反対	55
4) どちらともいえない	77
無回答	8
計	406



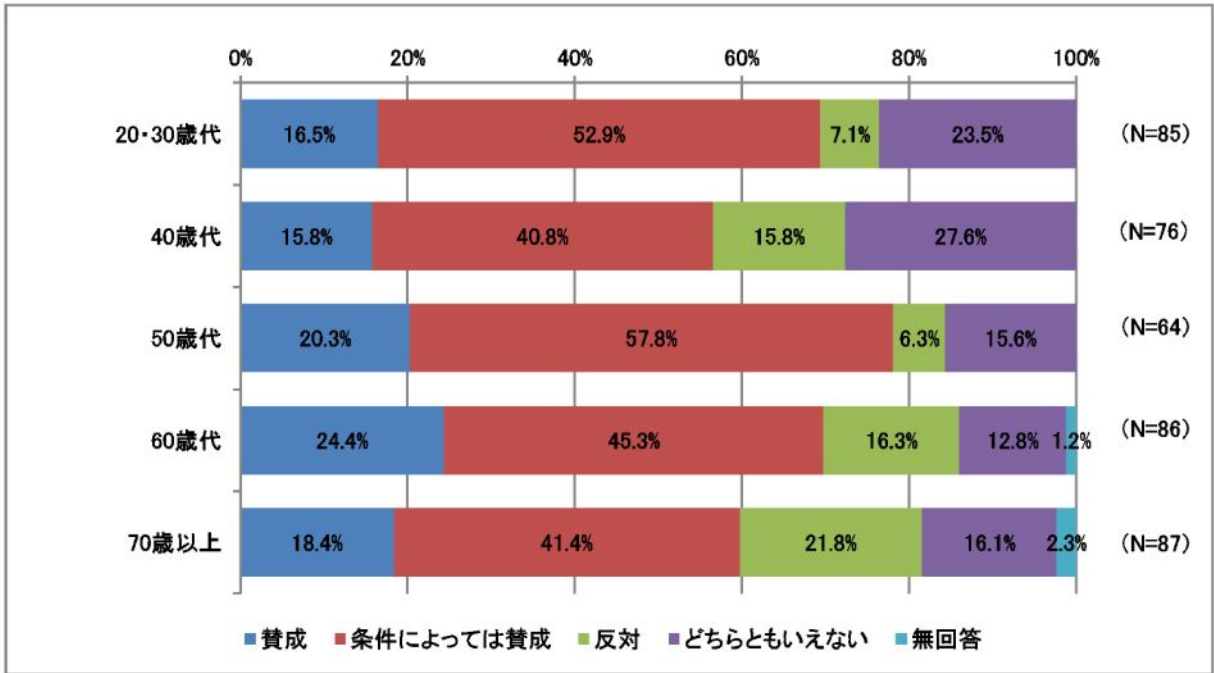
■性別

性別で見ると、男性の方が「賛成」、「条件によっては賛成」の割合が高い。



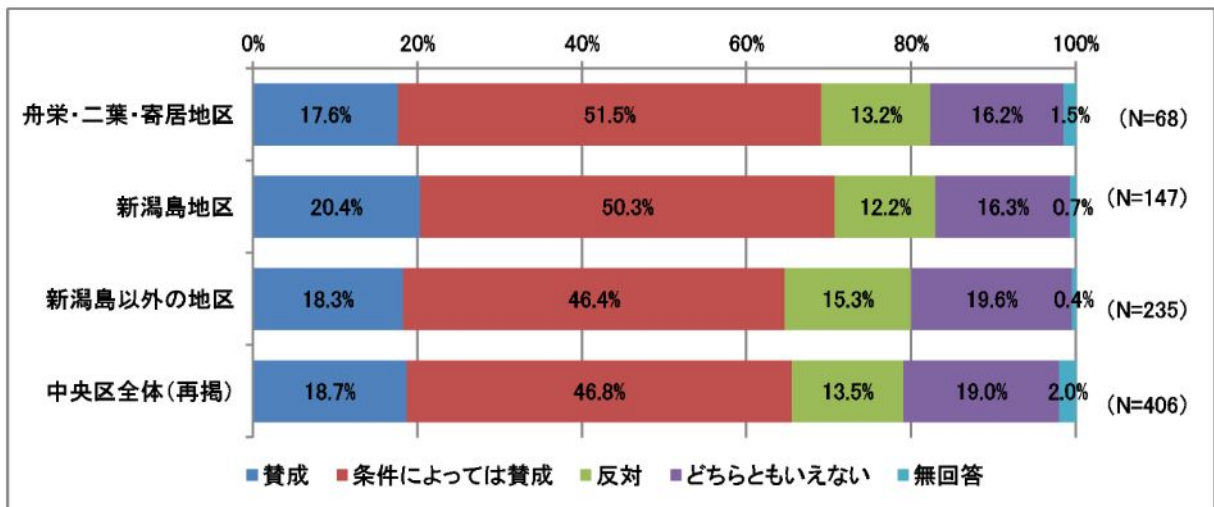
■年齢別

年齢別で見ると、50歳代では「条件によっては賛成」も含めた「賛成」の割合が特に高く（約78%）、70歳以上では「反対」の割合が比較的高い（約22%）。



■地域別

地域別で見ると、新潟島地区（舟栄・二葉・寄居地区のみ含む）の方が「条件によっては賛成」も含めた「賛成」の割合が高い。



問6で「②条件によっては賛成」とお答えになった方にお聞きします。

問6-2. どのような条件なら賛成しますか。(いくつでも○)

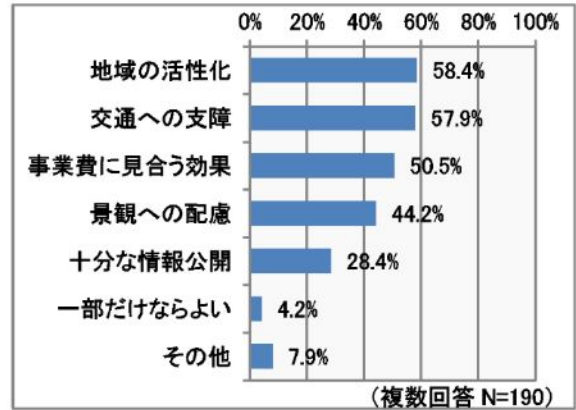
堀割の再生の条件は、「地域の活性化」が最も多く111件(約58%)、次いで「交通への支障」が110件(約58%)、「事業費に見合う効果」が96件(約51%)であった。

	(件)
1) 地域の活性化につながるならよい	111
2) 交通に支障がなければよい	110
3) 事業費に見合う効果が得られるならよい	96
4) 景観に配慮した再生ならよい	84
5) 市民への十分な情報公開があればよい	54
6) 一部だけならよい	8
7) その他	15
計	478

無回答 0

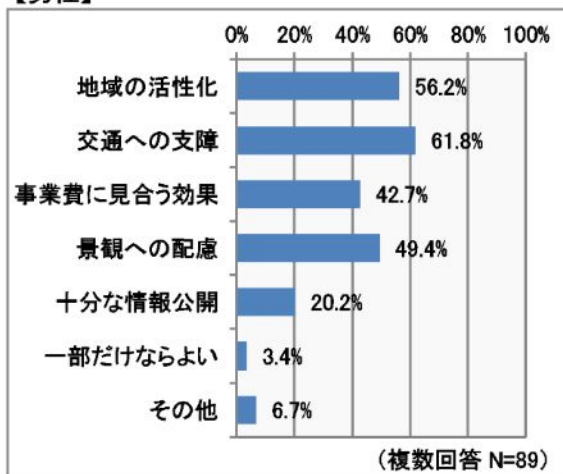
■ その他の意見

- ・ 衛生的で安全であれば(6)
- ・ 魅力的なものならば(2)
- ・ お金をかけすぎなければ、予算があるなら(2) など

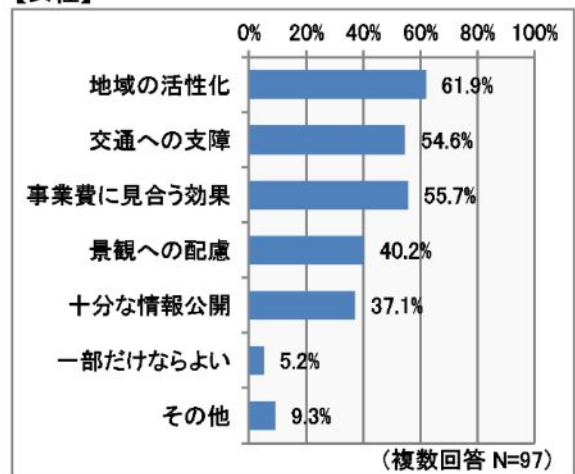


■ 性別

【男性】

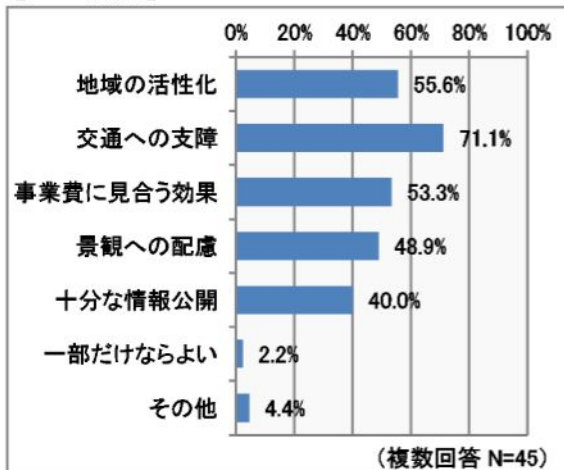


【女性】

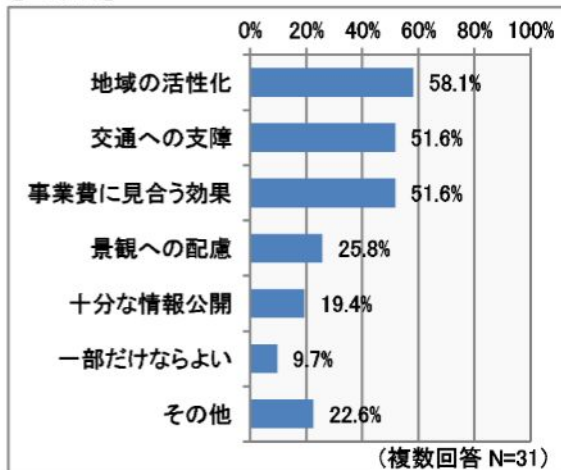


■年齢別

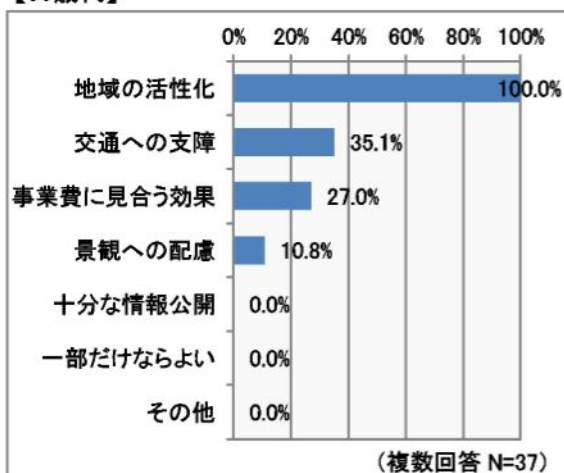
【20・30歳代】



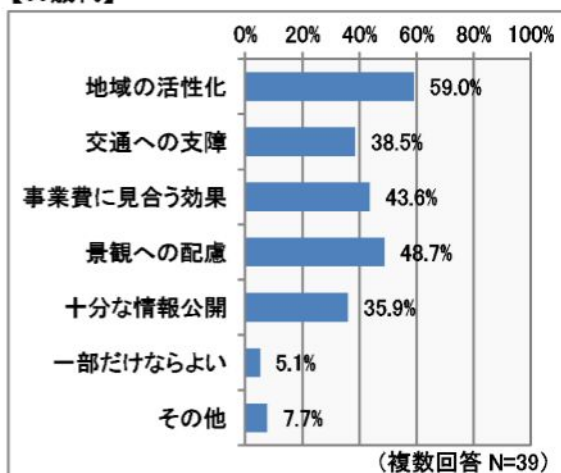
【40歳代】



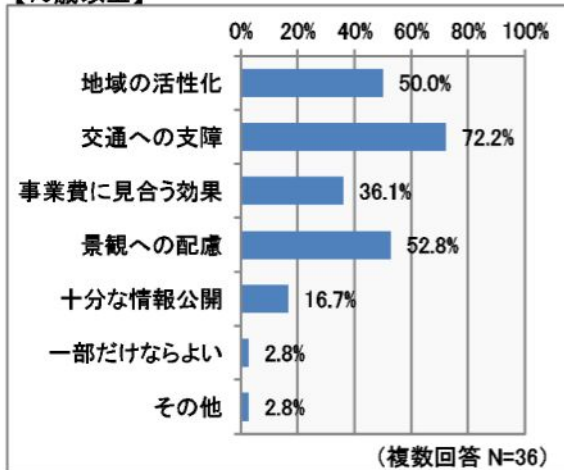
【50歳代】



【60歳代】

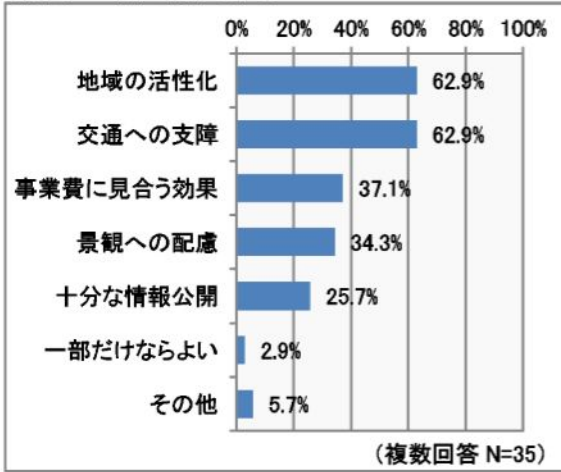


【70歳以上】

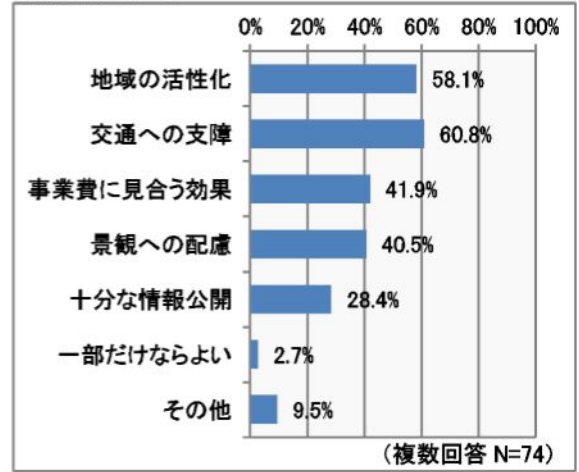


■地域別

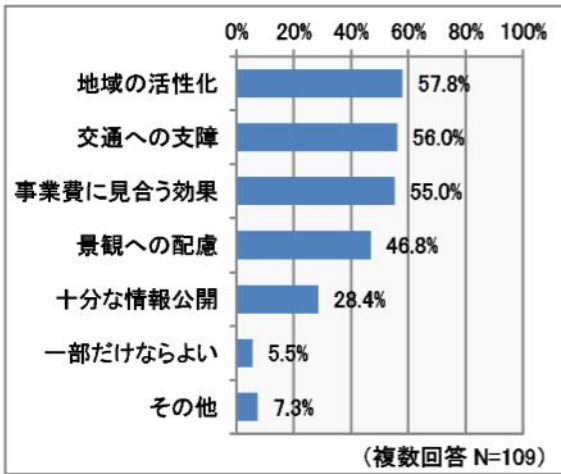
【舟栄・二葉・寄居地区】



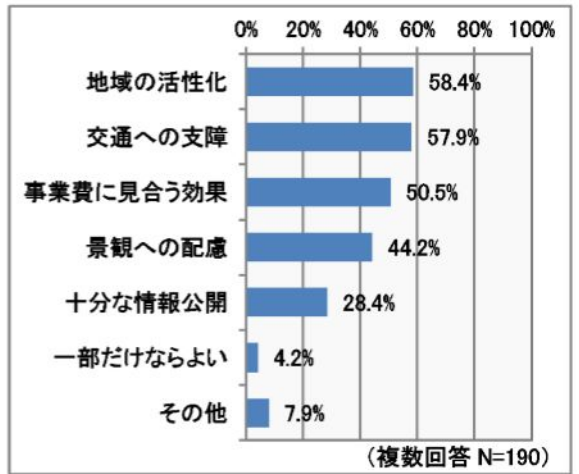
【新潟県地区】



【新潟県以外の地区】



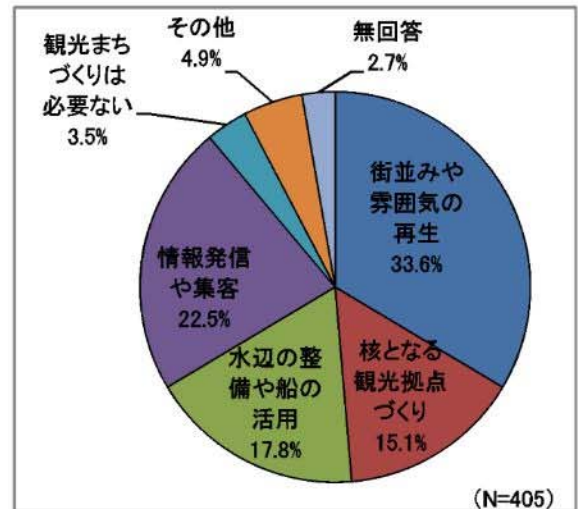
【中央区全体(再掲)】



「水辺とみなとまち部会」では、『北前船時代の街並みづくり』をテーマに、全国に誇れる観光拠点づくりを目指した調査・研究を行っています。
 問7. あなたは、どのような観光まちづくりが望ましいと思いますか（1つに〇）

観光まちづくりについては、「街並みや雰囲気の再生」の割合が最も高く約34%、次いで「情報発信や集客」が約23%、「水辺の整備や船の活用」が約18%であった。

	(件)
1) 「みなとまち新潟」の情緒豊かな街並みや雰囲気を再生すること	136
2) 北前船時代からの観光資源を活かしながら、核となる観光拠点をつくり出すこと	61
3) 「みなとまち新潟」が感じられるよう、水辺の整備や船(舟運等)を活用すること	72
4) 他の取組みやイベントと連携しながら、情報発信や集客を図ること	91
5) 観光まちづくりは必要ない	14
6) その他	20
無回答	11
計	405
無効	1

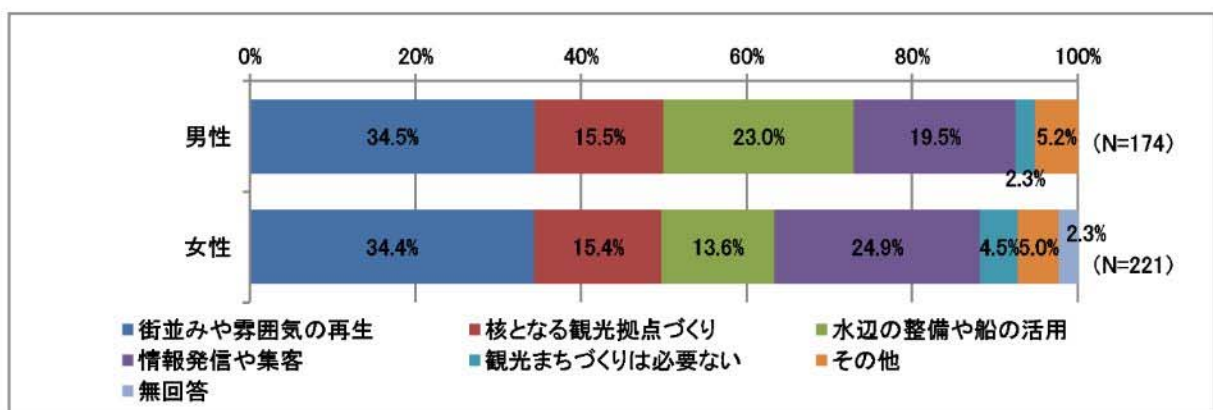


■ その他の意見

- ・ 河川・水辺の整備・活用[信濃川やその河口の景色、情報発信など] (3)
- ・ 水辺の整備や景観の活用はよいが、わざとらしい復元や再生は反対 (2)
- ・ 堀の復活・再生 (2)
- ・ 観光の対象となる一つ一つをどのように時間と交通で結ぶか、連携が大切
- ・ 観光資源の活用と合わせて交通面、アクセス面の整備
- ・ だれからもわかりやすく子供たちが楽しめること など

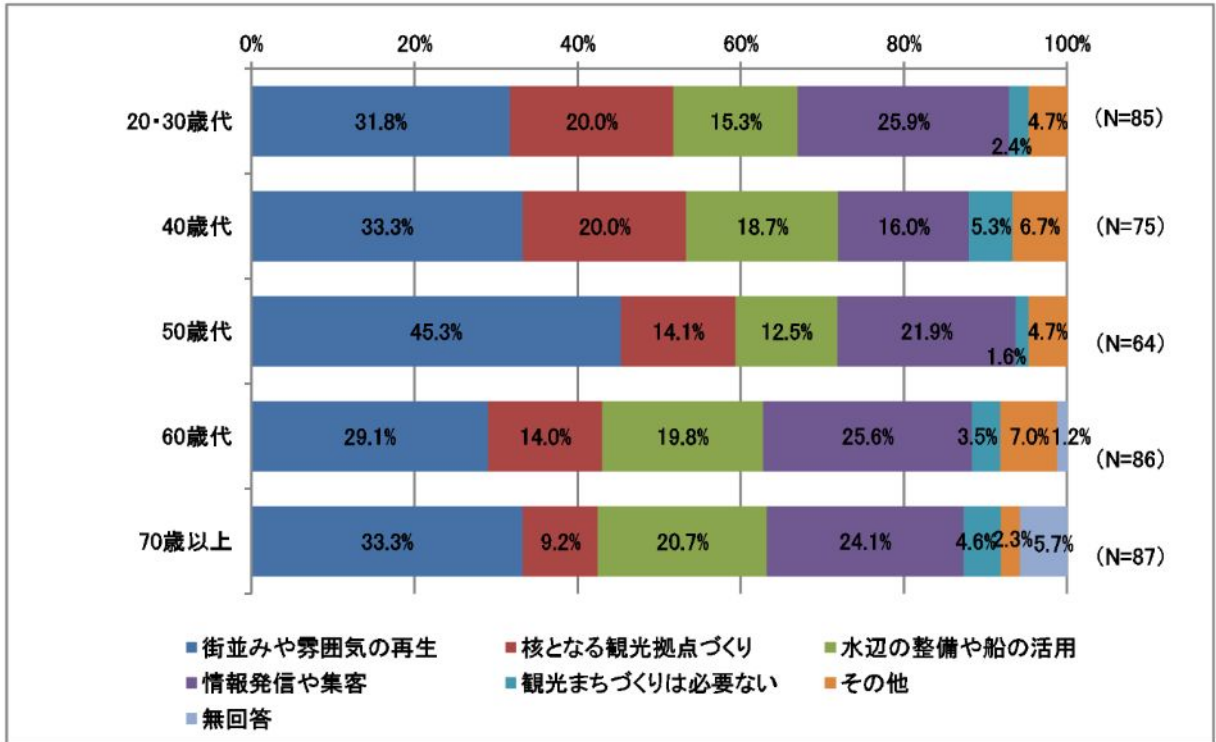
■ 性別

性別で見ると、男性では「水辺の整備や船の活用」の割合が比較的高く、女性では「情報発信や集客」の割合が比較的高い。



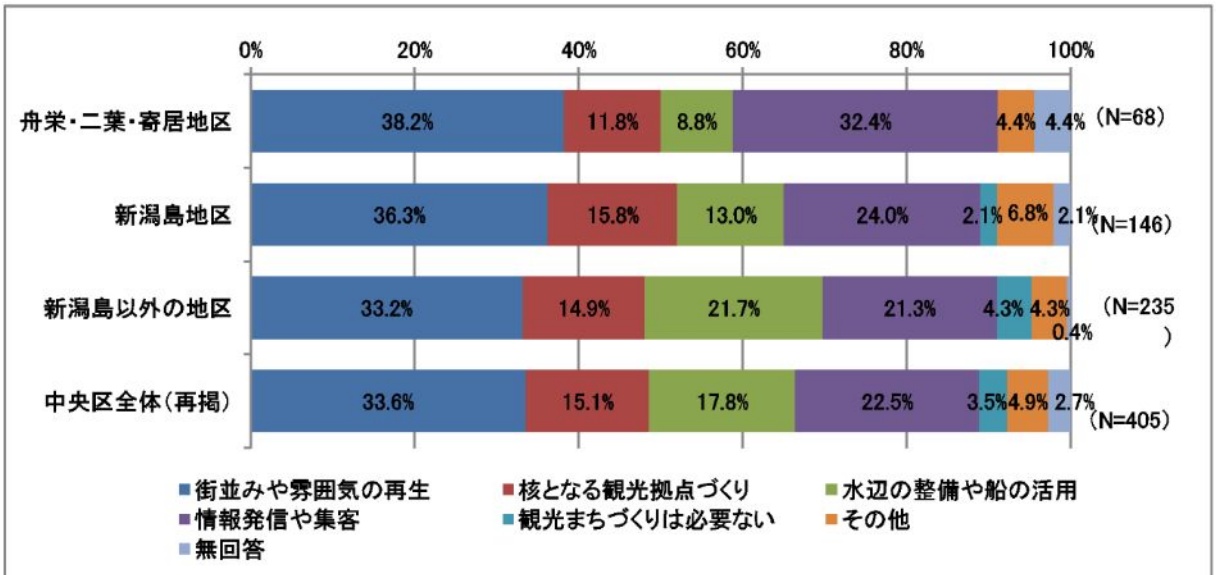
■年齢別

年齢別で見ると、50歳代では「街並みや雰囲気再生」の割合が特に高く、20・30歳代や40歳代では「核となる観光拠点づくり」の割合が比較的高い。



■地域別

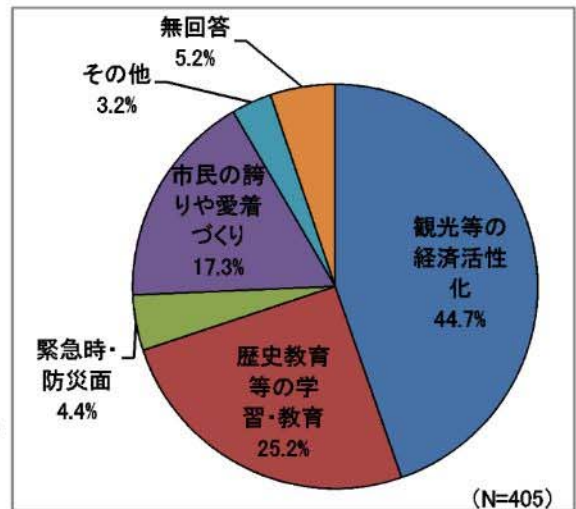
地域別で見ると、舟栄・二葉・寄居地区では「情報発信や集客」の割合が比較的高く、新潟島以外の地区では「水辺の整備や船の活用」の割合が比較的高い。



問8. “北前船”を現代や未来にどのように活かしていくべきだと思いますか。
(1つに〇)

北前船の現代・未来への活用については、「観光等の経済活性化」の割合が最も高く約45%、次いで「歴史教育等の学習・教育」が約25%、「市民の誇りや愛着づくり」が約17%であった。

	(件)
1) 観光等の経済活性化に活用すべき	181
2) 歴史教育等の学習・教育で活用すべき	102
3) 緊急時・防災面で活用すべき	18
4) 市民の誇りや地域の愛着づくりに活用すべき	70
5) その他	13
無回答	21
計	405



■ その他の意見

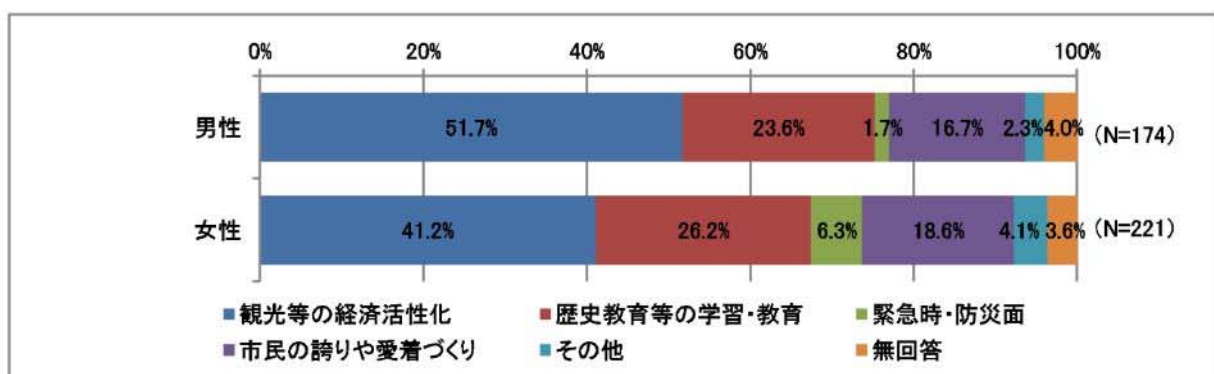
- ・ 他の北前船地域と連携してフェリー観光や友好都市とする
- ・ 北前船にこだわらず、水辺とみなとまちを活力にすべき
- ・ わからない、必要ない(8)

■ 具体的なアイデア等

- ・ アニメーション化、昔の街並み等を映像にして教材化する。
- ・ 北前船を新造して信濃川をゆっくりと走らせた。観光客及び市民が喜んで乗船できるように。
- ・ 他の港町都市との密接な連帯、観光都市としてのモデルケースの学習。
- ・ 北前船自体知らない人が多いので、作ることよりも市民全体に伝えること。郷土の誇り・期待・希望をもたせることが必要。
- ・ せっかくなどびあがあるのだから、もっとみなとびあへ行きやすくし、北前船の展示・掲示をするとよい。
- ・ 区内の小・中学校で希望する学校へ出前授業を行う。子ども達の見聞も参考になるのでは。
- ・ 新潟は水がたくさんあり何でもおいしく、町の真中に川が流れている県は他にない。水をテーマに催し物をもっと開催する。
- ・ 近年の古町等の衰退から原因は何か追求すべき。ノスタルジーを感じている年代も多くそこにヒントが必ずある。
- ・ 北前船をテーマに旧税関、旧小澤家住宅を中心に物産販売やイベント、徒歩で探索。(旧日和山灯台・海までのコースなど)
- ・ 新潟市中央区の“ブランド”にしてほしい。 など

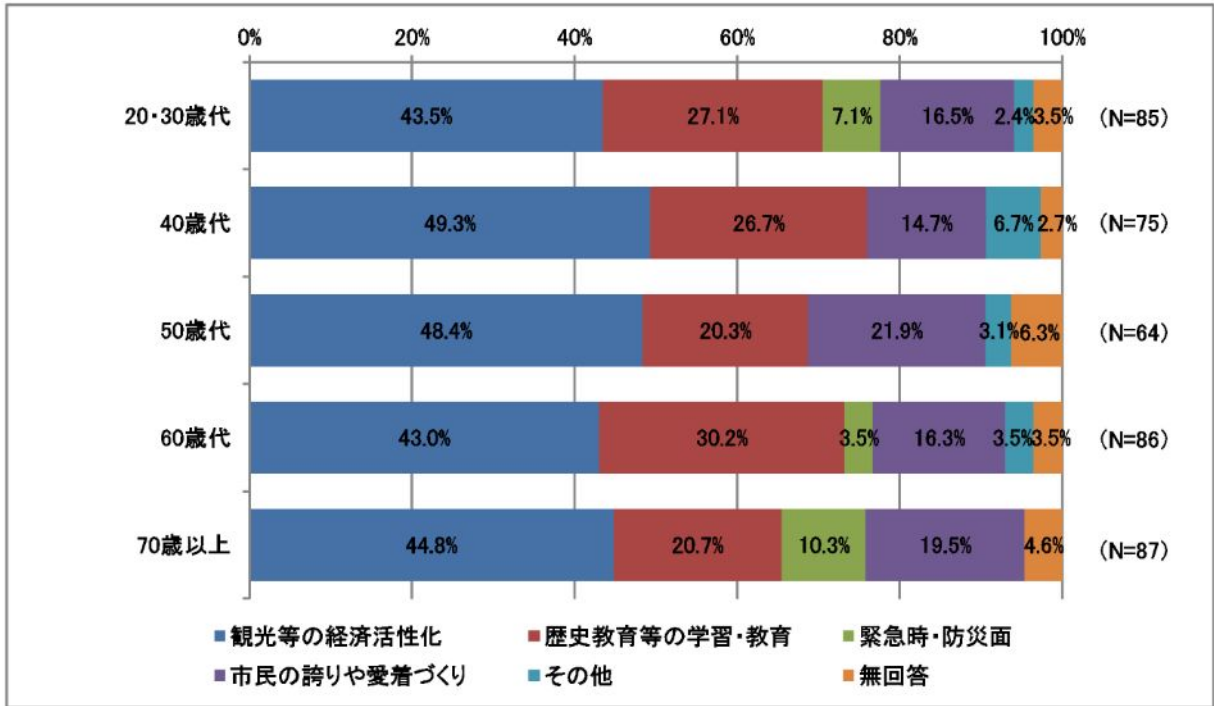
■ 性別

性別で見ると、男性では「観光等の経済活性化」の割合が特に高い。



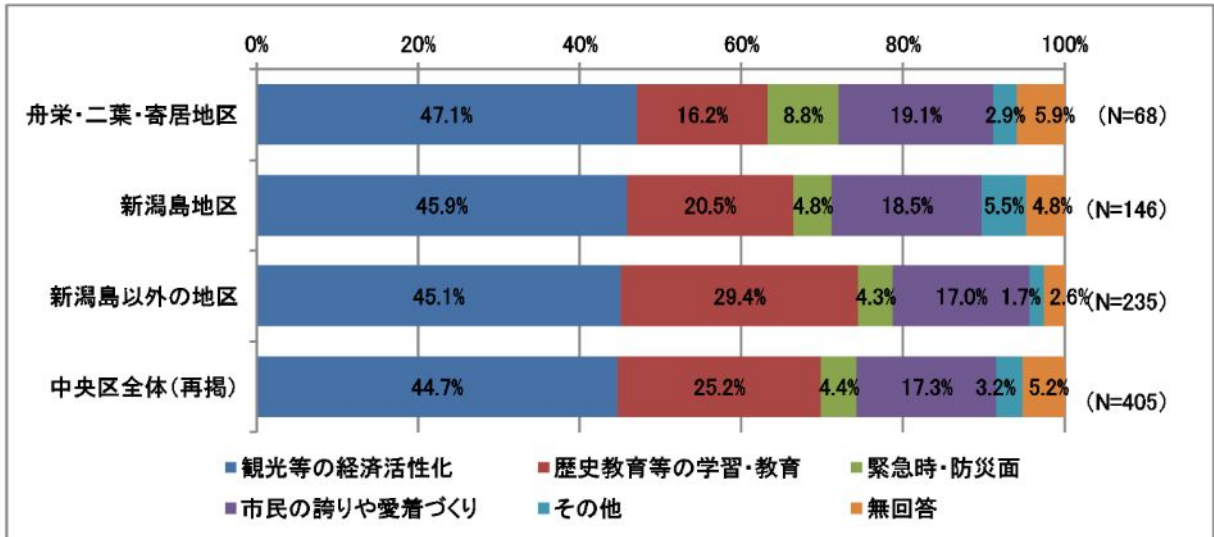
■年齢別

年齢別で見ると、60歳代で「歴史教育等の学習・教育」、50歳代で「市民の誇りや愛着づくり」、20・30歳代、70歳以上で「緊急時・防災面」の割合が比較的高い。



■地域別

地域別で見ると、舟栄・二葉・寄居地区では「緊急時・防災面」の割合が比較的高く、新潟島以外の地区では「歴史教育等の学習・教育」の割合が比較的高い。



◇ 今後の課題

(1) 北前船に関する情報発信、普及啓発

問1の中央区にあるお勧めの観光スポットでは、北前船に関連する施設として、新潟市歴史博物館、旧斎藤家別邸がそれぞれ6位(約15%)、7位(14%)に位置しており、魅力的な施設として認識されていることがうかがえる。一方で、20・30歳代等の若い世代や新潟島以外の地区では低くなっており、また、問4の旧小澤家住宅、旧斎藤家別邸の施設自体を知らない人が、20・30歳代では約5割いる。問5の「堀割の街並み」についても、全体としての認知度は約8割だが、20・30歳代では約5割にとどまっている。

今後は、新潟市の貴重な地域資源である北前船に関連する歴史・文化を後世に引き継いでいくために、若い世代や新潟島以外の地域にも広くこれらの価値や魅力を発信し、幅広い世代・地域への周知・普及に取り組んでいく必要がある。

例えば、北前船関連施設の概要や地域での取り組み等を紹介するようなパンフレットの作成、広報(市報にいがた、区役所だより)やHP等を活用した定期的・継続的な情報発信、セミナーやシンポジウムの開催等が考えられる。

(2) 地域資源や施設間のネットワークづくりと地域イベントとの連携

中央区には、北前船に関連する施設が多数立地する一方で、問4-2の回答にもあるように、「場所がわからない(わかりづらい)」、「興味がない」などの課題が挙げられている。

観光面での活用や集客の促進を図る上では、各施設の場所とその魅力の積極的な周知とともに、周辺環境を活かしたネットワークの強化や散策・まちあるきを楽しめる界隈性の向上、信濃川・やすらぎ堤等の新潟を代表する景観や河川・水辺の活用など、地域一帯で連携して、下町地域の魅力をさらに高める工夫が必要である。

また、問3で挙げられているように、中央区には新潟まつりや食の陣、酒の陣、新潟総踊り祭等の魅力的な行事・イベントが多数行われており、これらと連携した北前船関連のPRや当該地域・施設へ誘導するような仕掛けづくりも考えられる。

(3) 北前船時代の街並みづくり

北前船に関連した観光まちづくりを推進していく上では、問7に挙げられているように、「情緒豊かな街並みや雰囲気再生」が特に求められている。問2の魅力的な景観や街並みでは、河川や並木等の自然資源が上位に挙げられている中で、街並みとして「古町花街」が4位(約12%)に挙げられており、問6の堀割の再生についても約7割の人が賛成している。

今後は、点在する北前船関連の施設や貴重な歴史的建造物等を活かし、みなとびあを中心としたまちなか再整備に向けた計画づくりや、堀割再生の検討も含めた下町地区における本物の景観づくりを進めていくことが重要である。

寄港地自治体アンケート調査

『北前船寄港地におけるまちづくり』に関するアンケート調査 結果

(1) 目的

寄港地自治体のうち40自治体に対し、北前船に関する史跡の有無や他自治体との連携、まちづくりへの活用状況と今後の方針など、各地の取り組みの特徴や課題などをうかがい、新潟での北前船寄港地におけるまちづくりに役立てていくために、アンケート調査を実施する。

(2) 調査設計

- ・調査対象：全国の寄港地自治体のうち、関連資料により40自治体を抽出
- ・調査方法：郵送配布・郵送回収（一部ファックス・メールにより回収）
- ・調査期間：平成26年2月25日～3月12日（16日間）
- ・回収結果：25通（回収率62.5%） ※締切遅延分も含む

(3) 対象自治体

- ・調査対象：40自治体
- ・回答数：25自治体
- ・取り組み自治体：19自治体

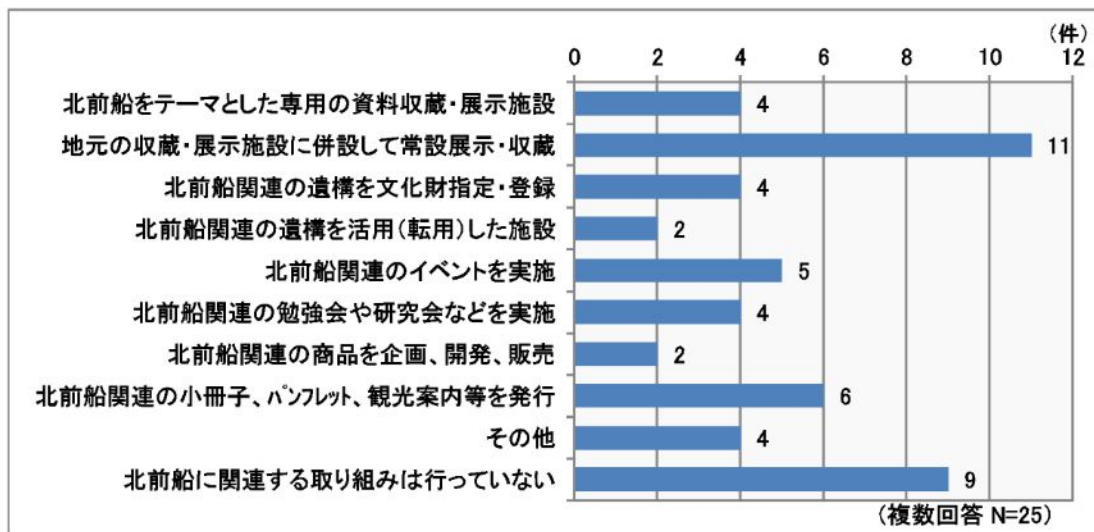
※問1でいずれかの取り組みを実施していると回答のあった自治体

表 寄港地アンケート調査の対象自治体

	自治体	回答	取り組み		自治体	回答	取り組み
1	小樽市	○	○	21	七尾市	×	-
2	江差町	×	-	22	輪島市	○	○
3	松前町	×	-	23	志賀町	○	○
4	函館市	○	○	24	金沢市	○	×
5	外ヶ浜町	○	×	25	白山市	×	-
6	むつ市	○	×	26	加賀市	○	○
7	五所川原市	○	○	27	坂井市	×	-
8	鱒ヶ沢町	×	-	28	南越前町	○	○
9	深浦町	×	-	29	敦賀市	○	○
10	能代市	○	×	30	小浜市	×	-
11	男鹿市	×	-	31	宮津市	×	-
12	秋田市	×	-	32	香美町	×	-
13	酒田市	○	○	33	境港市	×	-
14	佐渡市	○	○	34	隠岐の島町	○	○
15	新潟市	○	○	35	大田市	○	○
16	出雲崎町	○	○	36	浜田市	○	○
17	柏崎市	○	×	37	萩市	○	○
18	上越市	○	×	38	下関市	○	○
19	高岡市	×	-	39	宇部市	×	-
20	富山市	○	×	40	福岡市	○	×

問1. 北前船に関連したまちづくりや観光等の取り組みを行っていますか。
(いくつでも〇)

回答のあった25自治体のうち、17自治体でいずれかの取り組みを実施している。このうち、「地元の収蔵・展示施設に併設して常設展示・収蔵」が最も多く11件、次いで「北前船関連の小冊子、パンフレット、観光案内等を発行」が6件、「北前船関連のイベントを実施」が5件であった。



	① 北前船をテーマとした専用の資料収蔵・展示施設がある	② 地元の郷土資料や民俗資料の収蔵・展示施設に併設して常設展示・収蔵している	③ 北前船関連の遺構を文化財指定・登録している	④ 北前船関連の遺構を活用(転用)した施設がある	⑤ 北前船関連のイベントを実施している	⑥ 北前船関連の勉強会や研究会などを行っている	⑦ 北前船関連の商品を企画、開発、販売している	⑧ 北前船関連の小冊子、パンフレット、観光案内等を発行している	⑨ その他
小樽市							○		
函館市		○						○	
五所川原市		○	○			○			
酒田市		○							
佐渡市		○	○		○	○	○		
新潟市	○	○	○	○	○		○		
出雲崎町	○								
輪島市								○	
志賀町		○							
加賀市	○		○	○	○	○	○		
南越前町	○	○			○	○	○		
敦賀市		○						○	
隠岐の島町		○							
大田市		○							
浜田市					○		○		
萩市								○	
下関市		○							

【その他の回答】

- 函館市：民間の展示施設「高田屋嘉兵衛資料館」において、北前船に関する資料を展示している。高田屋嘉兵衛ゆかりの菜の花にちなんだ「吟醸菜の花の沖」という函館の地酒がある。
- 輪島市：施設（北前船資料館）はあるが、現在閉館中。
- 敦賀市：北前船図絵馬を市指定文化財に指定している。
- 萩市：模型あり。かつて資料作成しPR。現在は、ガイド“ネタ”の一つ。

問2. 北前船をまちづくりや観光等に活用し始めた時期はいつ頃からですか。また、北前船を活用することになった理由（きっかけなど）をお書きください。

古くから活用している自治体としては、佐渡市（昭和43年）や加賀市（昭和58年）で30年以上前から取り組んでいる。

取り組みとしては、修学旅行による体験型観光（小樽市）や、史跡型観光（五所川原市）等のテーマ性のある観光振興のほか、廃校転用時の資料収集（佐渡市）や旧北前船関連住宅の再利用（加賀市、南越前町）による資料館の開館等がある。

数多くの歴史的な資料の存在がきっかけとなり、それらとともに各地域の歴史文化を伝えるための情報発信や施設整備により、観光や教育に活用している自治体が多い。

自治体	時期	きっかけ
小樽市	平成17年	修学旅行生誘致のための体験プログラムをつくるため。
函館市	不明	-
五所川原市	平成2年	当時の日本海交易の実態や十三（とさ）湊を支配した安藤氏の軌跡の情報発信を図るため、史跡型観光がスタートした。
酒田市	不明	-
佐渡市	昭和43年	地元小学校の統合により、廃校舎の博物館転用における北前船関連資料を含めた資料収集が行われた。
新潟市	平成21年	（旧小澤家住宅開館）
出雲崎町	平成6年	越後出雲崎天領の里オープン。
輪島市	平成4年	北前船関係の資料が多数存在していたこと。
加賀市	昭和58年	旧北前船主邸を市が買い取り、北前船専門の資料館として開館したこと。
南越前町	平成2年	河野村の時代の1989年にふるさと創生事業で交付された資金で、北前船歴史むらづくりと称して、右近家12代当主保太郎氏に賛同していただき、右近家主家、西洋館などの改修工事を行い、資料館として開館することとなった。
敦賀市	不明	港町として栄えてきた歴史を伝えるため。（当市は江戸時代に北前船の寄港地として栄えていた。北方の産物（昆布やニシン等）を日本海、琵琶湖、淀川を經由して畿内に運ぶルートにおいて、当市は非常に重要な役割を担っていた）
隠岐の島町	平成7年	本町の自然を紹介する展示施設のオープンに際し、北前船の模型を展示。
萩市	平成10年	-

問3. 貴自治体において、北前船に関係する特徴的な施設(ハード)や取り組み(ソフト)について、以下の各項目のうちあてはまるものをお書きください。

特徴的な施設では、資料館・展示館（函館市、五所川原市、佐渡市、加賀市、南越前町）や指定文化財（新潟市、富山市）のほか、道の駅や公園等における模型船の展示（酒田市、出雲崎町）等があり、実施主体・管理主体は市の直営のほか、指定管理者が活用されている。

ねらいは、観光拠点の整備やPR（五所川原市、佐渡市、出雲崎町、南越前町）、歴史文化の紹介（新潟市、加賀市）、町並みとの連携（佐渡市）が挙げられており、その効果も見られる。

《施設（ハード）》

自治体	1. 概要	2. ねらい	3. 実施主体 ・管理体制	4. 効果
函館市	函館高田屋嘉兵衛資料館	-	-	-
五所川原市	市浦歴史民俗資料館整備 [341.01 m ²]	史跡型観光拠点の整備を図る。	指定管理者の活用	国指定遺跡「十三湊遺跡」として認識され、一定の入館者が見込まれた。
酒田市	北前船の1/2スケールでの再現・展示	日和山公園のオブジェ、景観の向上。	酒田市	公園の景観の向上。
佐渡市	白山丸展示館、幸丸展示館	町並み保存地区と連携した文化歴史の拠点施設及び観光等の交流人口の拡大。	佐渡市	観光等の交流人口拡大による観光入込者数の増加。
新潟市	北前船の時代館・旧小澤家住宅 [建物延面積 860 m ² 、敷地面積約 1,600 m ²] (新潟市文化財)	・湊町新潟の歴史と文化の紹介。 ・回船業・回船問屋業を営んだ小澤家の紹介。	指定管理者の活用	市民の来館と市外観光客の来館により、来館者が前年度より増加。
出雲崎町	道の駅越後出雲崎天領の里にて、御奉行船を展示	観光拠点にてPRがねらい。	指定管理者 (ジグックスフードサービスが運営)	-
富山市	旧森家住宅 (国重要文化財)	-	富山市	-
加賀市	北前船の里資料館 [総面積 951.89 m ² 、敷地面積約 1000 坪]	北前船主を多く輩出した地域として、歴史的資料(資源)の発信がねらい。	加賀市	観光資源。
南越前町	北前船主の館、右近家整備(主屋、西洋館、山荘展示館、展望台、駐車場、トイレ等)	南越前町の観光拠点とすること。	南越前町 (産業振興課)	施設及び町並み周辺の整備により、観光客の増加が見込め、町民の意識も変わる。

特徴的な取り組みは、遺跡発掘調査（五所川原市）、祭り（佐渡市）、まちあるき（隠岐の島町）、セミナー・フォーラム開催（加賀市、南越前町）等多岐にわたり、実施主体・管理主体も市のほか、市民団体等が行っている。

ねらいとしては、地域の活性化（函館市）、観光 PR（南越前町、隠岐の島町）、学習・人材育成（佐渡市、新潟市、加賀市、南越前町）等が挙げられており、その効果として、交流人口や地元に対する愛着や誇り、市民意識の向上等が見られる。

《取り組み（ソフト）》

自治体	1. 概要	2. ねらい	3. 実施主体 ・管理体制	4. 効果
函館市	はこだて菜の花プロジェクト	高田屋嘉兵衛ゆかりの菜の花を栽培することにより、函館の活性化に努める。	市民団体主体	-
五所川原市	十三湊遺跡発掘調査	幻と言われた「中世十三湊」を発掘により、明確な位置づけにする。	五所川原市	市民の歴史学に向けた向上心が増えた。
佐渡市	白山丸祭り	文化歴史学習、交流人口の拡大。	白山丸友の会	・地元に対する愛着と誇り。 ・交流人口の増化。
新潟市	・湊町新潟の歴史と文化の紹介 ・回船業・回船問屋業を営んだ小澤家に係る展示	・北前船関連やその他の企画展の実施。 ・施設ボランティアの育成。	-	・湊町として繁栄した新潟の歴史と文化への市民の理解。 ・市民による地元への愛着と誇りの高揚。
加賀市	全国北前船セミナーの開催（毎年）	北前船に関する学習、新たな知見を深める。	全国北前船研究会主催、加賀市共催	北前船研究の拠点として全国から関心のある方が集まり、情報交換、交流。
南越前町	・西廻り航路フォーラム開催 ・河野座開催	北前船主の館右近家、観光 PR、ボランティアガイド育成、北前船歴史勉強会、サービスの向上。	・北前船歴史空間プロジェクトの会議、月1回（町・県職員町民など） ・南越前町観光ネットワーク会議、年2回 ・北前船主の館、右近家会議	プロジェクトの会議に町民に入ってもらい、地元の方々からの意見などを参考にしたり、視察していただき交流を深める。
隠岐の島町	「町あるき」（ツアー客等向けのガイド）の中で、北前船について紹介	観光 PR。	ツアー客等を対象に、ガイドが実施	不明。
浜田市	北前船関連史料の文化財指定	史料の保存。	市教育委員会	北前船に対する市民の認知。

問4. これまでに北前船寄港地フォーラムに参加したことはありますか。また、このほかに北前船に関連した他自治体等との連携や交流の取り組みを実施・参加した経験はありますか。

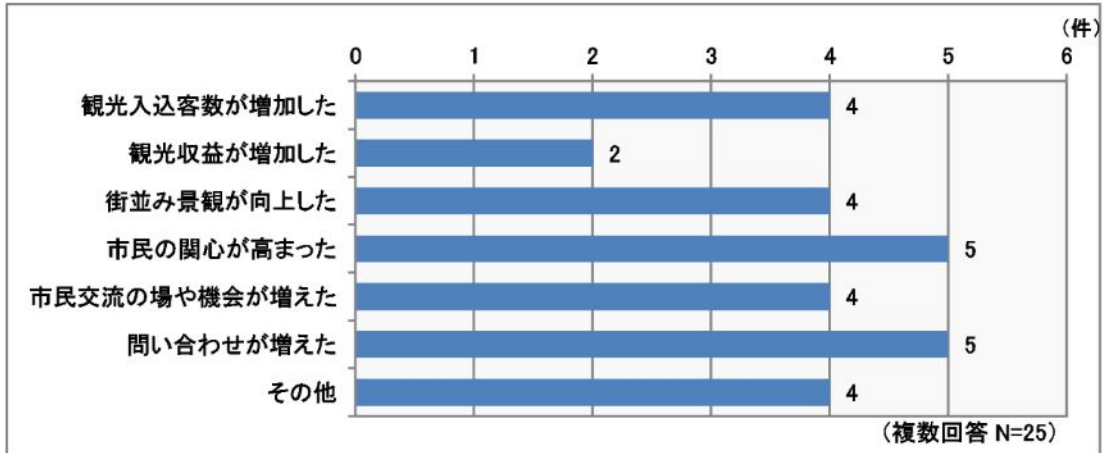
7自治体でフォーラムへの参加経験があり、函館市は7回と最も多く参加している。その他の連携・交流の取り組みとしては、北前船関連イベントの開催や他自治体で行われるイベントへの参加等が見られる。

自治体	フォーラム参加経験		連携交流の取り組み
函館市	7回	青森、鱒ヶ沢、函館、長岡、酒田、男鹿、新潟	高田屋嘉兵衛の出身地である兵庫県洲本市と交流がある。(洲本市で行われる高田屋嘉兵衛まつりに函館市が参加し、函館市で行われる港まつりに洲本市が参加)
五所川原市	2回	深浦市、鱒ヶ沢町	-
能代市	1回	男鹿	「江差追分」感謝の旅「北前船」寄港地訪問」事業 (H24. 7. 26)
酒田市	2回	酒田市・男鹿市	-
佐渡市	2回	男鹿、寺泊	北前船寄港地フォーラム in 佐渡
新潟市	-		北前船関連資料の借用と展示
出雲崎町	--		-
上越市	1回	北前船寄港地フォーラム in 新潟	-
富山市	-		みちのく丸富山寄港記念イベント (H23. 8. 14 開催)
加賀市	-		北前船首長サミットへの参加、実施(現在はサミット自体が無い)
南越前町	2回	石川県、南越前町河野	地元でのフォーラムで交流会に出席

問5. 北前船をテーマとしたこれまでの施設整備や取り組みにおいて、どのような効果がありましたか。(いくつでも〇)

問5-2. 最も効果が高かったものは何ですか。

取り組みの効果としては「市民の関心が高まった」、「問い合わせが増えた」、が最も多く各5件であり、特に効果が高かったものとしては、「観光入込客数が増加した」(佐渡市、南越前町)、「市民の関心が高まった」(五所川原市、加賀市)等となっている。



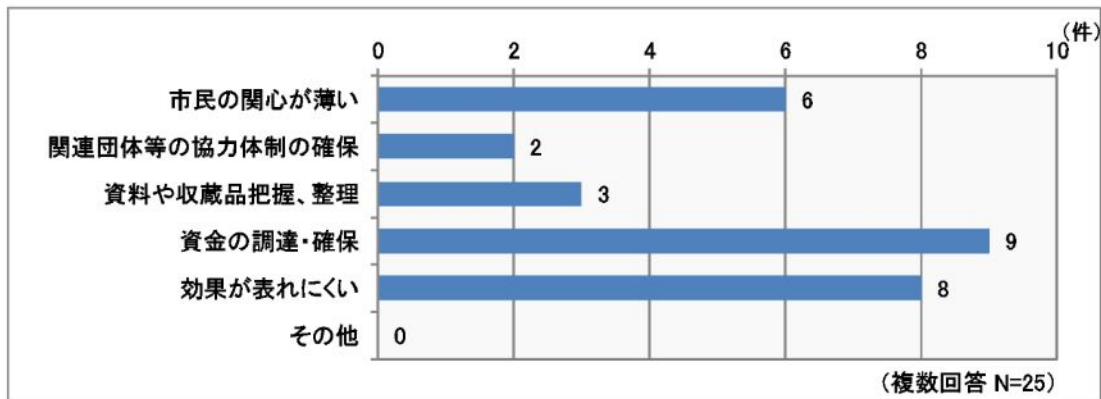
	① 観光入込客数が増加した	② 観光収益が増加した	③ 街並み景観が向上した	④ 市民の関心が高まった	⑤ 市民交流の場や機会が増えた	⑥ 問い合わせが増えた	⑦ その他
小樽市						○	
五所川原市				◎	○		
酒田市			◎				
佐渡市	◎	○	○	○	○	○	
新潟市				○	○		
出雲崎町	○					○	◎テレビ取材や雑誌等で取り上げていただく機会が増えた
加賀市			○	◎	○		
南越前町	◎	○	○			○	
敦賀市	○					◎	
浜田市				○			
萩市							○年に1-2回問い合わせがある

【具体的な効果】

南越前町：開館当初は入館数も多く、H3年は約5万人来館した。現在は減少し、約7000人となっている。

問6. 北前船に関する施設整備や取り組みを進める上で、課題は何だと思えますか。(いくつでも〇)

課題としては、「資金の調達・確保」が最も多く9件、次いで「効果が表れにくい」が8件、「市民の関心が薄い」が5件であった。



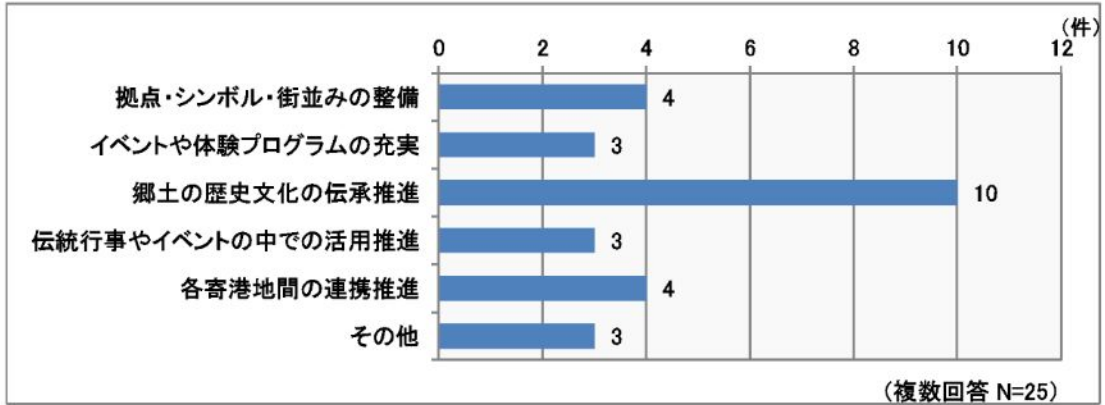
	① 市民の関心が薄い	② 関連団体等の協力体制の確保が困難	③ 資料や収蔵品把握、整理が困難	④ 資金の調達・確保が困難	⑤ 整備や取り組みの効果が表れにくい	⑥ その他
小樽市					○	
函館市				○		
むつ市	○			○		
五所川原市				○	○	
酒田市				○		
佐渡市				○	○	
新潟市				○		
出雲崎町	○	○				
輪島市	○				○	
加賀市			○		○	
南越前町	○	○		○		
敦賀市			○	○		
隠岐の島町	○		○	○		
浜田市	○		○		○	
萩市					○	

【具体的な改善策】

南越前町：イベントなど行うにしても、職員だけでは規模が限られてしまう。町民や関連団体の協力で、お客様に喜んでもらえるイベントを企画し、観光客の増加に繋がると思う。

問7. 北前船を今後の観光施策やまちづくりにどのように活かしていきたいですか。(2つまで〇)

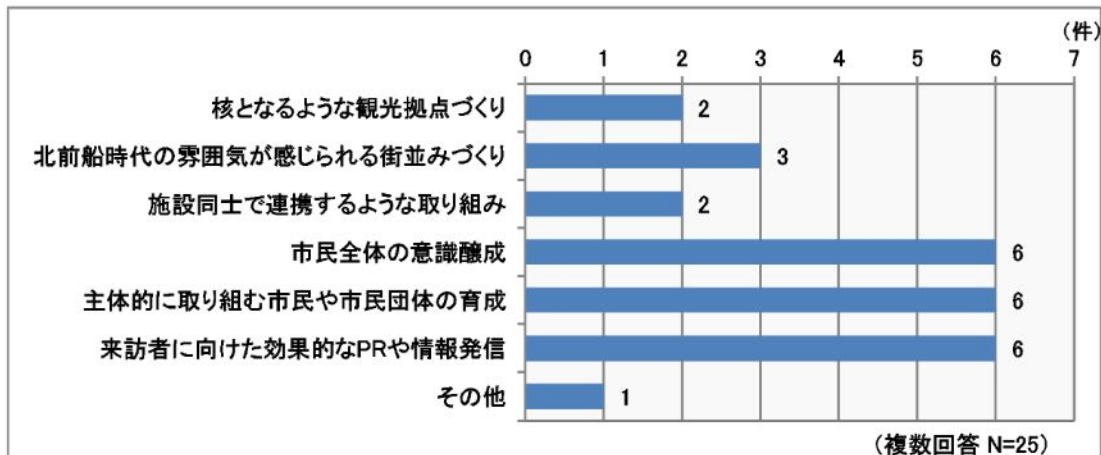
今後の取り組みとしては「郷土の歴史文化の伝承推進」が最も多く10件、次いで「拠点・シンボル・街並みの整備」、「各寄港地間の連携促進」が各4件であった。



	① 北前船をテーマとした 拠点・シンボル・街並みの整備	② 北前船をテーマとしたイベントや 体験プログラムの充実	③ 学校教育や生涯学習を通じた 郷土の歴史文化の伝承推進	④ 地域の伝統行事や イベントの中での活用推進	⑤ 広域交流として 各寄港地間の連携推進	⑥ その他
小樽市		○	○			
函館市					○	
むつ市		○	○			
五所川原市			○		○	
酒田市						○ (未定)
佐渡市	○				○	
新潟市	○		○			
出雲崎町			○		○	
柏崎市						○ (未定)
金沢市			○			
加賀市	○		○			
南越前町	○	○				
敦賀市			○	○		
隠岐の島町			○	○		
浜田市			○	○		
萩市						○ (未定)

問8. 北前船に関連したまちづくりを進める上で、特に重要なことは何だと思えますか。(2つまで〇)

特に重要なこととしては、「市民全体の意識向上」、「主体的に取り組む市民や市民団体の育成」、「来訪者に向けた効果的なPRや情報発信」が各6件で最も多かった。



	① 核となるような 観光拠点づくり	② 北前船時代の雰囲気が 感じられる街並みづくり	③ 施設同士で連携する ような取り組み	④ 市民全体の意識醸成	⑤ 主体的に取り組む 市民や市民団体の育成	⑥ 来訪者に向けた 効果的なPRや情報発信	⑦ その他
小樽市						○	
函館市						○	
むつ市				○		○	
五所川原市			○		○		
佐渡市		○	○				
新潟市		○			○		
出雲崎町				○	○		
柏崎市						○	
輪島市				○	○		
金沢市					○		
加賀市				○		○	
南越前町	○	○					
敦賀市				○		○	
隠岐の島町				○	○		
浜田市	○						
萩市							○ 全国的な価値の向上

問9. これまでの経験を踏まえ、助言やアドバイス等をご自由にお書きください。

6自治体から以下のような助言やアドバイスが挙げられた。

自治体	自由意見
五所川原市	<p>関連した自治体の道の駅等に「北前船特産品コーナー」を設けて物産交流を進めていただきたい。</p> <p>五所川原市には青森県内でも古いと言われる民謡「十三（とさ）の砂山」があります。歌の中に「弁財衆」とあり、西廻りの千石船の船員達が乗っている弁財船を言います。当市では「北前船」より「弁財船」が身近であるため、今回のような調査には「北前船、弁財船」と表記頂けたら幸いです。</p>
柏崎市	<p>平成23年10月1日～11月13日の間、柏崎ふるさと人形館にて企画展「廻船と幻の鉄道—近代柏崎の海運—」が開催されましたが、市として北前船に関するまちづくりの観光等の取り組みは行っていません。</p>
志賀町	<p>当町においては北前船に関する資料が少なく、観光素材として積極的に活用していないのが現状です。</p>
金沢市	<p>金沢市では、北前船に関連した施設や事業はないが、石川県の施設で「石川県銭屋五兵衛記念館」があり、北前船に関する資料が展示されている。金沢を拠点に北前船を研究している団体がある。北前船の里デザインワーク石川（株式会社日本海コンサルタント内）でシンポジウムを開催したりと積極的な活動をしているようである。</p>
加賀市	<p>加賀（瀬越・塩屋・橋立）は北前船の寄港地ではなく、あくまでも船主が居住した、あるいは船主や船頭を多く輩出した地です。念の為申し添えさせていただきます。</p>
南越前町	<p>開館当初は珍しさもあり、あまりPRしなくてもお客様は来てくれましたが、同じものを何度も見に来てくれないため、イベントを企画したり、西洋館でコーヒーを飲めるようにしたりとお客様に興味や喜んでいただけるサービスを心掛けてまいりました。北前船の歴史だけでなく、お客様の関心のある右近家の歴史についても勉強しております。</p>

◇ 今後の課題

(1) 情報PRやプログラム、サービスの工夫

北前船に関する情報公開は、各寄港地では問1の回答にもあるように、資料収蔵や展示が多いが、それらを活用するのは専門家や研究者、関心の高い人々に限られる場合が多い。広く一般市民や観光客への周知・PRとしてパンフレットや案内等の発行も行われているが、自治体の広報やHPによる情報発信の他、昨今の通信手段の多様化に即したPRや、観光関連イベント等の機会を利用してPRを進める等の工夫が求められる。

また、資料展示についても、問9でも南越前町が回答しているように、リピーターを確保するためにはテーマ性のある定期展示や講演会、体験プログラム、飲食・販売を兼ね備える等のソフトやサービスの充実が求められ、同時に駐車場やアクセス、案内等のハード面の整備拡充も必要である。

(2) 北前船を現代や未来に活かす方策の検討

北前船が繁栄した当時の歴史文化の把握・理解をもとに、それを現代や未来にふさわしい実用的な利活用を検討することが求められる。たとえば、北前船による舟運再生により、観光周遊船や歴史文化の体験学習として利用したり、防災・減災対応として物資や人の運搬船、避難所、備蓄庫としての利用、通勤通学船として活用すれば車両交通緩和による道路混雑の回避、環境配慮にもつながる。

また、問3の回答にあるように、観光振興や地域振興の一環として、各市町で特徴的な史跡型観光や体験型観光の振興、街並み・景観形成、北前船のブランド化による産業振興等が図られると、問5の回答にもあるように、市民の関心や愛着、誇りが高まり、さらにより良いまちづくりにつながっていくといった好循環の効果が期待される。

(3) 寄港地間の交流・連携の推進

北前船に関して先進的に取り組んでいる自治体や地域、団体間の継続的・実践的な交流・連携を推進するため、問4の回答にあるように、「北前船寄港地フォーラム」等の定期的なイベントへの参加・協力はもとより、活動に応じて情報交換を逐次行える連携体制を整えることが求められる。

これにより、北前船に関連したまちづくりを進めていく上での拠り所となり、また広域連携など寄港地間の一体感や協力関係の高揚が期待される。

(4) 人材と資金の確保

北前船を活かした様々な取り組みを継続的に行っていく上では、安定的な人材と資金の確保が不可欠であるが、問6の回答で示されているように、多くの自治体で資金難が課題として挙げられている。観光振興やまちづくり、産業振興につなげていくためには、関連事業者や金融機関も含め、産官学民一体となった取り組みが求められる。

人材の確保については、問8の回答にも見られるように、専門家や研究者、専門分野の学生や市民ボランティアによる情報発信等の先導的な協力をはじめ、また問7の回答にあるように、郷土の歴史文化の伝承推進の一環として、学校教育や地域学習を通じた人材育成を図ることが求められる。